ダイジェスト版

平成２４年度
長崎県児童生徒の
社会性・規範意識に関する調査研究
＜報告書＞ダイジェスト

家庭・学校・地域社会へのメッセージ

みんなで育てよう、心豊かでたくましい長崎っ子

平成２５年３月

長崎県教育センター

目　　次

頁

Ⅰ　調査の概要…… 1

Ⅱ　調査結果の概要

1　規範意識…… 2
2　家庭生活…… 4
3　学校生活…… 7
4　社会生活…… 9

Ⅲ　家庭・学校・地域社会へのメッセージ

家　庭　温もりの中で社会性の基本をはぐくむ場に…… 10
学　校　夢をはぐくみ生きる力を育てる場に…… 14
地域社会　大人のつながりで子どもが育つ場に…… 19

※掲載しているグラフ内の（　）のついていない数値は、平成２４年度調査における割合を表し、（　）のついた数値は平成１９年度調査における割合を表しています。

「平成２４年度　長崎県児童生徒の社会性・規範意識に関する調査研究＜報告書＞」は、長崎県教育センターWeb ページ（http://www.edu-c.pref.nagasaki.jp/）から ダウンロードすることができます。

表紙写真は、菖蒲の花が咲く大村公園南堀の様子です。
※菖蒲の花言葉に、「やさしい心、忍耐、あなたを信じます」とあります。
（『花と花ことば辞典』新典社）

Ⅰ　調査の概要

１　調査目的

児童生徒を取り巻く社会状況や教育環境が変化する中で、児童生徒の生活全般にわたる意識や実態及び保護者・教員の意識を調査し、その結果を学校・家庭・地域の教育力の向上に役立てる。

２　調査の基本方針

平成１４年度、平成１９年度の調査に引き続き、今回が３回目の調査となる。過去２回の調査との経年変化をみるため、平成１９年度の調査形態を基本として実施した。

３　調査対象者（県内の学校から抽出）

(1) 対象児童生徒
　小学校第５学年児童、中学校第２学年生徒、高等学校（私立を含む）第２学年生徒、各７００名程度
(2) 保護者
　上記(1)の各学校の児童生徒の保護者
(3) 教　員
　上記(1)の各学校の教員

４　調査領域

(1) 基本属性　(2) 家庭生活　(3) 学校生活　(4) 人間関係　(5) 規範意識　(6) 社会生活　(7) その他

５　調査方法等

(1) 調査方法
・ 児童生徒及び保護者　質問紙法による調査
・ 教員　インターネットによる調査
(2) 回答者数
ア 小学校第５学年児童　７５３人　（※参考　県内小学校第５学年児童数　１３，４８７人）
イ 中学校第２学年生徒　７２１人　（※参考　県内中学校第２学年生徒数　１４，２９２人）
ウ 高等学校第２学年生徒　７９５人　（※参考　県内高等学校第２学年生徒数　１３，６５１人）
エ 上記アイウの保護者　２，１９５人
オ 上記アイウの教員　９０４人

６　調査時期

平成２４年７月９日(月)～７月２０日(金)の２週間

※１　設問の問いや選択肢は、それぞれの学年に応じて表現を変えている。
※２　地区別の区分は、「平成の市町村合併」以前の区分による。
　「都市部」　…長崎市・佐世保市・島原市・諫早市・大村市
　「市・郡部」…平戸市・松浦市・西彼杵郡・東彼杵郡・北高来郡・南高来郡・北松浦郡
　「しま部」　…福江市・南松浦郡・上県郡・下県郡・壱岐郡
※３　平成１９年度調査との比較を可能な限り適正に行うために、以下の点に配慮した。
　①　母集団から標本を抽出する方法は前回と同じとした。
　②　アンケート調査の回答数をできる限り前回と同じとした。
　③　アンケート調査項目の順序や構成をできる限り前回と同じとした。
※４　アンケート調査項目の追加や削除等の変更点については、報告書「第５章　資料編」に掲載している。

７　報告書の概要

〔主な内容〕
・家庭・学校・地域社会へのメッセージ
・調査及び調査結果の概要
・各設問の調査結果及びクロス集計結果とその分析

Ⅱ　調査結果の概要

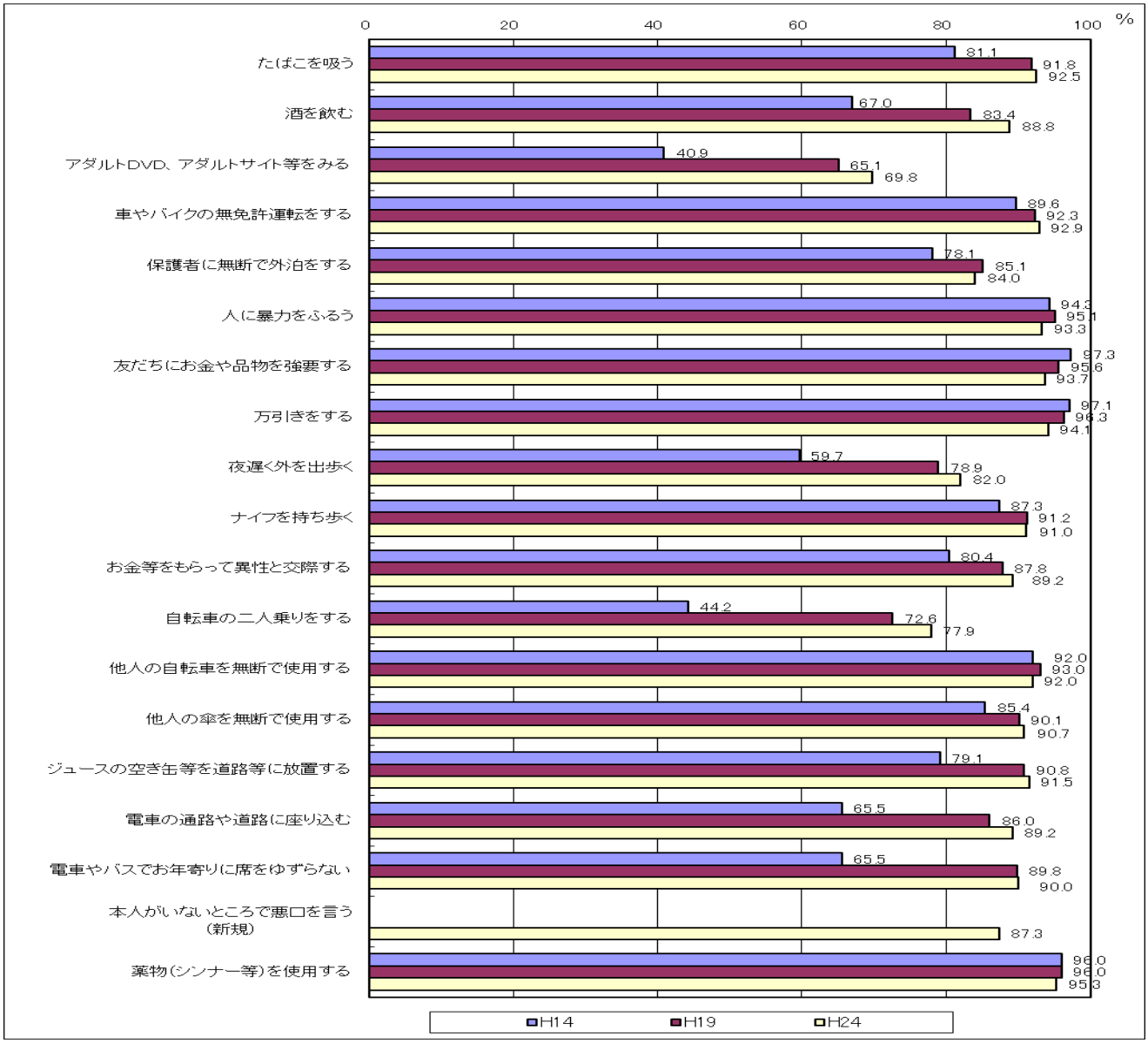
１　規範意識

○この１０年間で、本県児童生徒の規範意識は全体的に向上しています。

＜調査内容＞
- ○「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」に関する内容（１９項目）
- ○「学校での友だちの行為に対する感じ方」に関する内容（７項目）
- ○「授業中の行為に対する感じ方」に関する内容（９項目）

＜調査結果＞
- ①10 年間の経年比較で、３３項目中２８項目で数値が向上（この５年間では２６項目で向上）。
- ②10 年間の経年比較で、平均 12.3 ポイント向上（この５年間では 2.3 ポイント向上）。

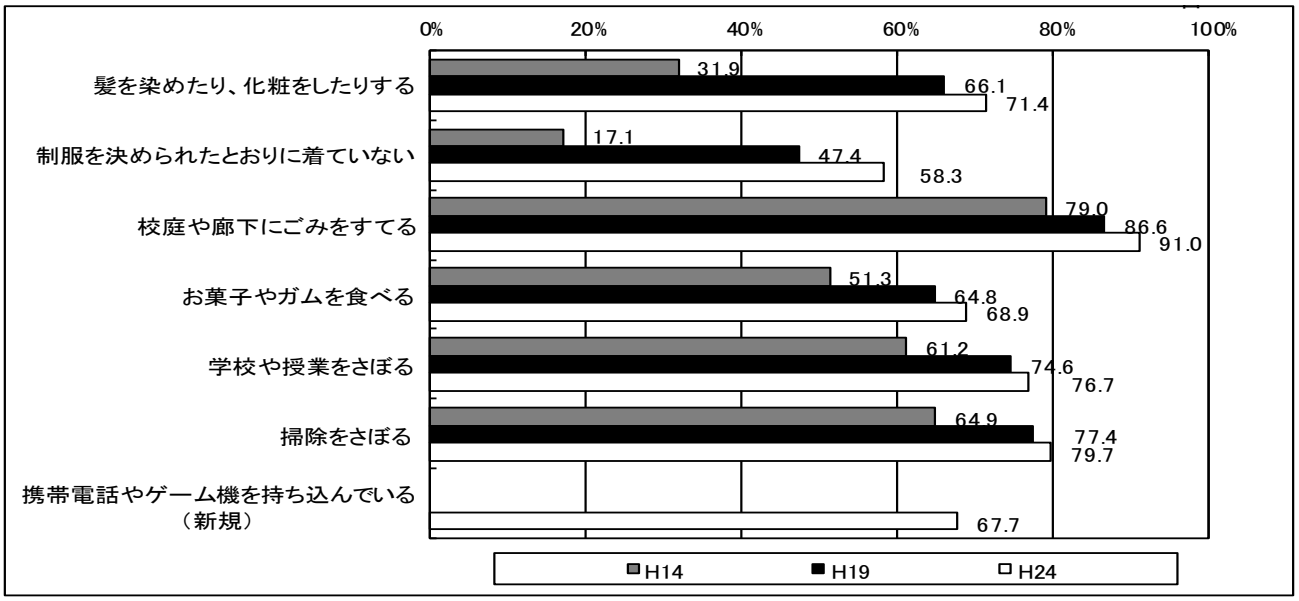
（１）　日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断　報告書 pp. 25～34



【図１】　日常生活で友だちが行っていたら「悪いと思う」と回答した割合（全児童生徒）
＊「本人がいないところで悪口を言う」は、今回新設。

- ●喫煙、飲酒、AV 視聴、深夜外出、自転車二人乗り、空き缶放置、通路マナー、座席マナーなど１２項目で「悪いと思う」児童生徒が増加（「日常生活の友人の行為」１８項目では、平均 9.9 ポイント向上）。
- ●「人に暴力をふるう」「友だちにお金や品物を強要する」「万引きをする」がやや低下。ただし、今回の調査では「無回答・誤記入」の回答割合が増えている。

（２）　学校での友だちの行為に対する感じ方　報告書 pp. 45～52



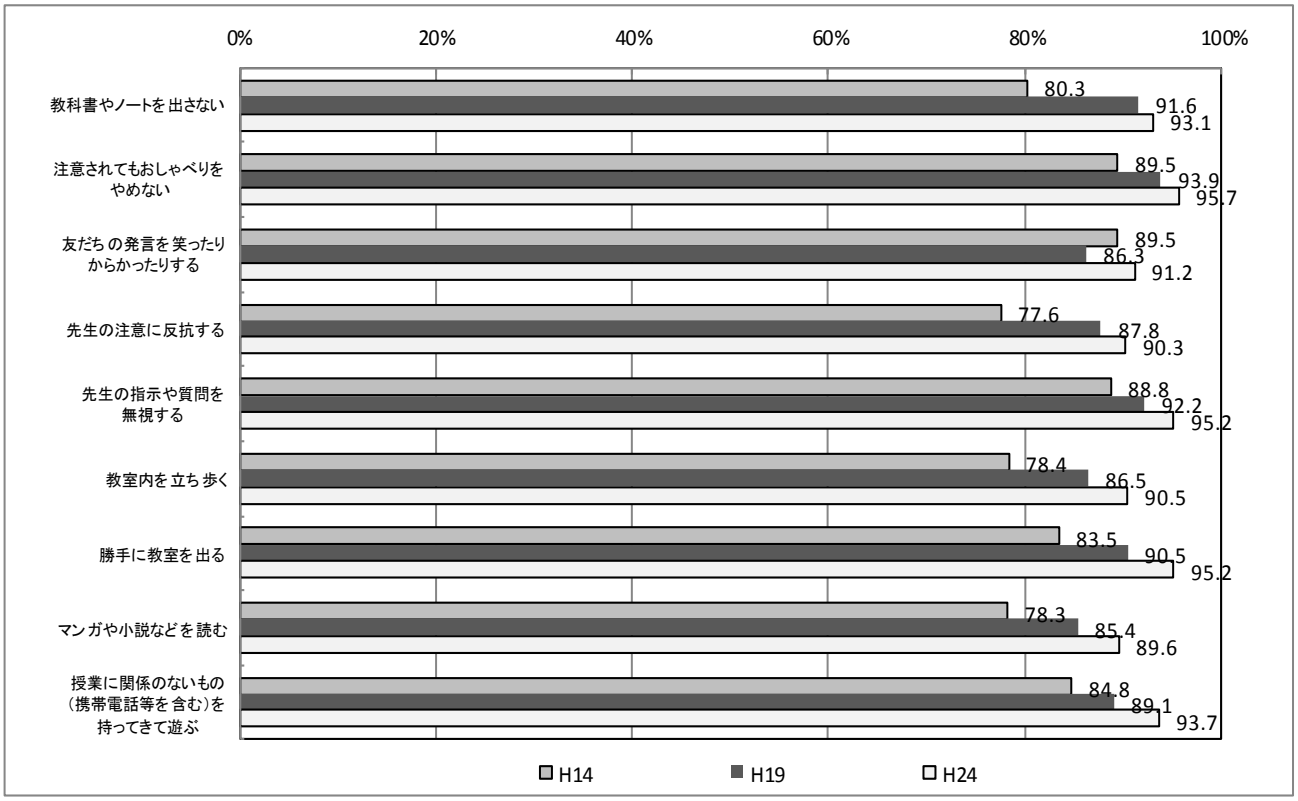
【図２】　学校で友だちが行っていたら「嫌な感じがする」と回答した割合（全児童生徒）
＊最下段の項目「携帯電話やゲーム機を持ち込んでいる」は、今回新設。

●髪染めや制服着用に関する項目をはじめ、全ての項目で向上。特に、身なり・服装に関する項目は、約 40 ポイント増加（「学校での友だちの行為」に関する６項目では、この１０年間で平均 23.4 ポイント向上）。

●全項目の平均は 73.4%止まり。「校庭や廊下にごみを捨てる」以外は、90%に達していない。

●新しい質問項目「携帯電話やゲーム機を持ち込んでいる」は 67.7%で、平均を下回っている。

（３）　授業中の行為に対する感じ方　報告書 pp. 53～58



【図３】　授業中に行ったら「悪いと思う」と回答した割合（全児童生徒）

●授業中の私語や先生の注意に関する項目をはじめ、全ての項目で向上した。全項目でほぼ 90%以上の児童生徒が「悪いと思う」と回答（「授業中の行為」に関する項目は、１０年間で平均 9.7 ポイント向上）。

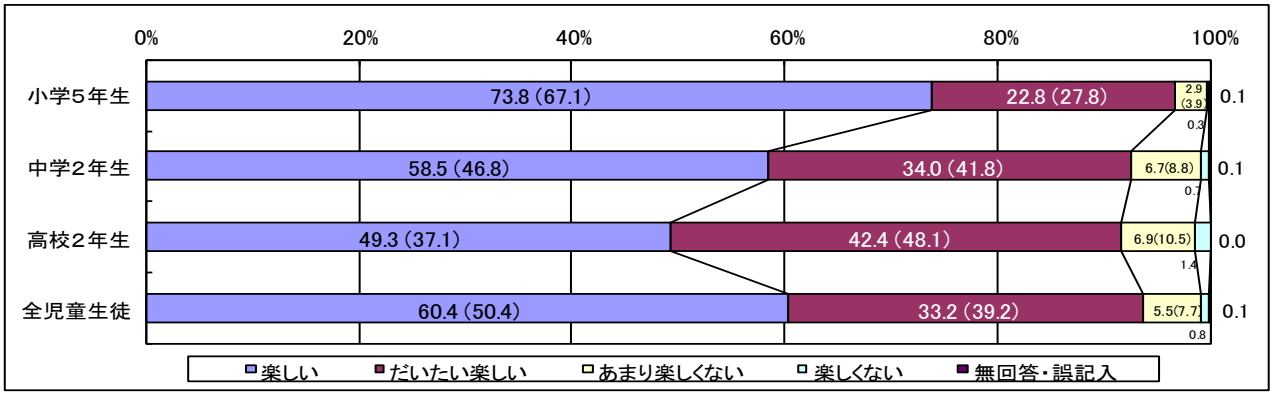
●「まんがを読む」「先生の注意に反抗する」「室内を立ち歩く」は、約１割が「悪い」と思っていない。

2　家庭生活

○この１０年間で、「家庭生活が楽しい」「朝食を食べる」児童生徒の割合が増えています。
○「家庭生活が楽しい」児童生徒ほど、規範意識が高い傾向にあります。
○「朝食を食べる」児童生徒ほど、規範意識が高い傾向にあります。

＜調査内容＞
○「家庭生活の楽しさ」「就寝時刻」「朝食の有無」「下校後の学習時間」など
＜調査結果＞
①「家庭生活が楽しい」割合が全校種で増加（この 10 年間で、平均 6.2 ポイント増加）。
②この 10 年間で「早寝傾向」になっていることが、全校種でうかがえる。
③「朝食を食べる」割合が全校種で増加（この 10 年間で、平均 3.4 ポイント増加）。
④下校後の学習時間が全体的に増加していることが、全校種でうかがえる。

（１）　家庭の楽しさ　報告書 pp. 59～60



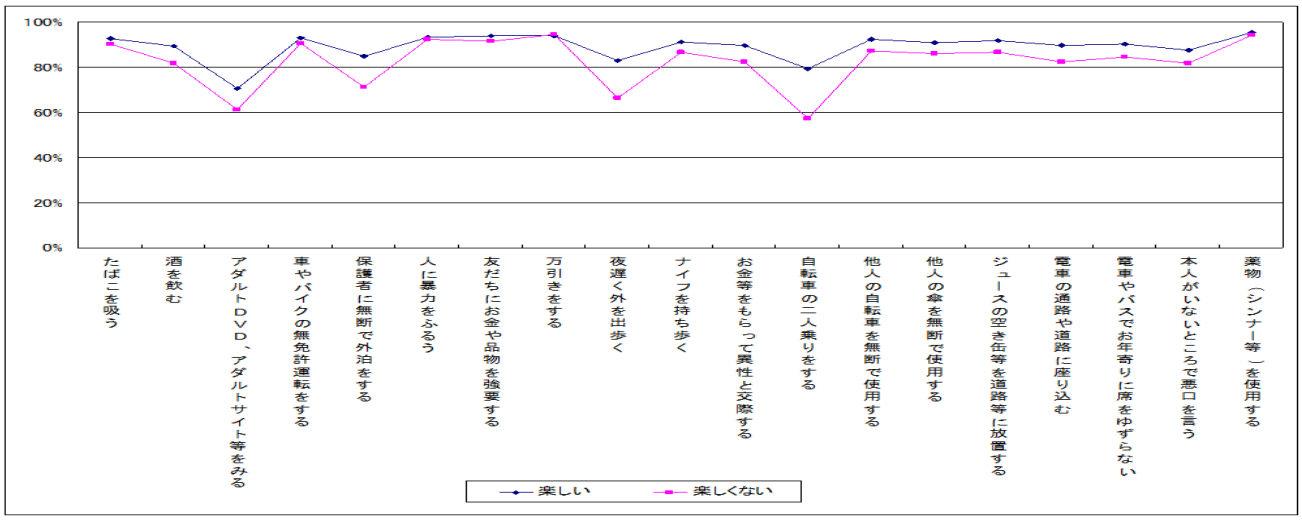
【図４】　家庭の楽しさ（※図中の（　）内の数値は、平成１９年度調査における割合を示す。以下同じ）

●全児童生徒の 93.6%が「家庭生活が楽しい」と回答。
　＊過去２回の集計と同じように、「楽しい」と「だいたい楽しい」の回答を合わせて「家庭生活が楽しい」の回答としている。
●「家庭が楽しい」児童生徒が、１０年前と比べると全校種で増加（【表１】参照）。

【表１】「家庭が楽しい」と回答した児童生徒の校種別・年度別割合

対象＼年度	Ｈ１４	Ｈ１９	Ｈ２４
小学５年	93.5%	94.9%	96.6%
中学２年	84.9%	88.6%	92.5%
高校２年	83.7%	85.2%	91.7%
全児童生徒	87.4%	89.6%	93.6%

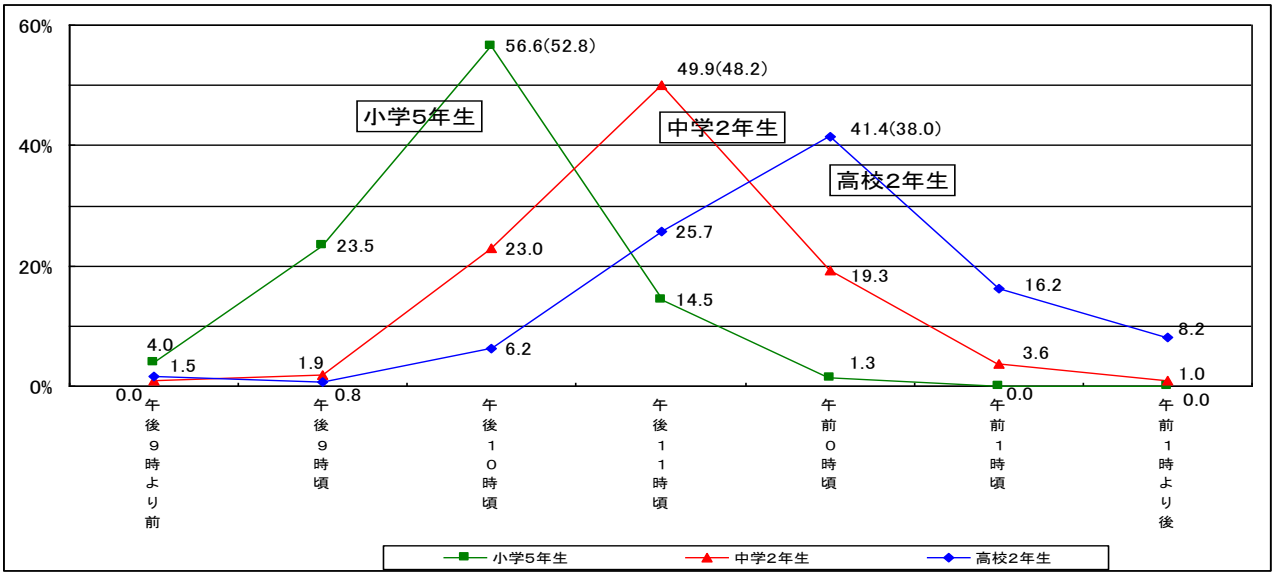
＜「家庭が楽しい」割合１０年間の変化＞
小５・・・3.1 ポイント増加
中２・・・7.6 ポイント増加
高２・・・8.0 ポイント増加
全・・・・6.2 ポイント増加



【図５】　「家庭の楽しさ」と「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」（クロス集計）

●「家庭が楽しい」と回答した児童生徒の方が、規範意識が高い傾向にある。

（２）　就寝時刻　　報告書 p. 63



【図６】　就寝時刻の校種別状況

●校種別の就寝時刻のピークは、小学５年生では「午後１０時頃」、中学２年生では「午後１１時頃」、高校２年生では「午前０時頃」（【図６】参照）。　　＊過去２回の調査でも同じ。

●全校種の就寝時刻のピークの割合が増加。
（この１０年間で、小５で3.6ポイント、中２で2.8ポイント、高２で2.7ポイント増加）

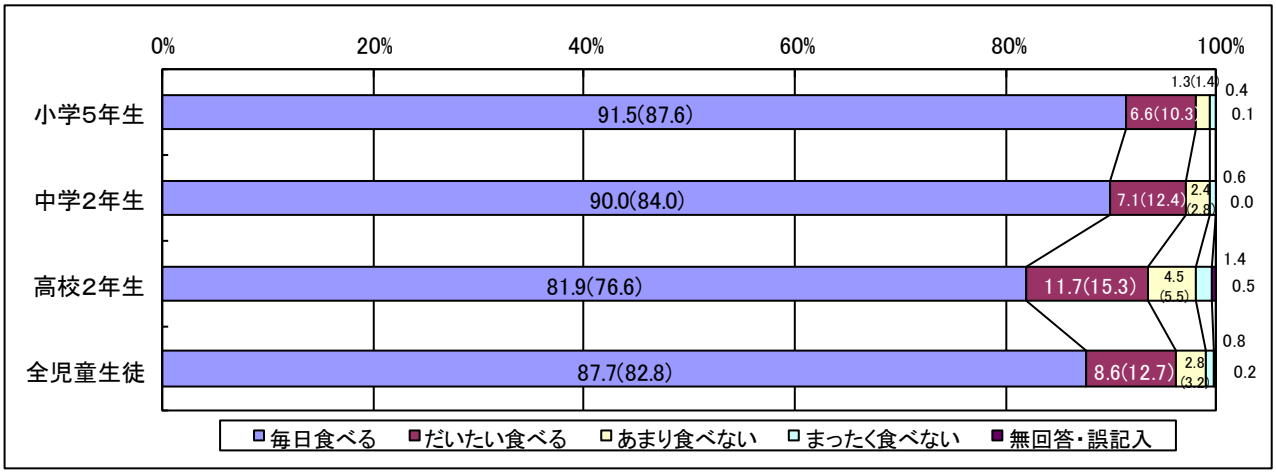
●就寝時刻のピークより遅く就寝している児童生徒が全校種で減少（【表２】参照）。
（この１０年間で、小５で5.4ポイント、中２で3.9ポイント、高２で6.1ポイント減少）

【表２】ピーク時刻より遅く就寝する児童生徒の校種別・年度別割合

対象＼年度	H14	H19	H24
小５（午後１１時頃以降）	21.2%	21.6%	15.8%
中２（午前0時頃以降）	27.8%	31.5%	23.9%
高２（午前１時頃以降）	30.5%	28.7%	24.4%

＜「遅く寝る」割合１０年間の変化＞
小５・・・5.4ポイント減少
中２・・・3.9ポイント減少
高２・・・6.1ポイント減少

（３）朝食の有無　　報告書 pp. 64～65



【図７】朝食の有無

●全児童生徒の96.3%が「朝食を食べる」と回答。
＊過去２回の集計と同じように、「毎日食べる」と「だいたい食べる」の回答を合わせて「朝食を食べる」の回答としている。

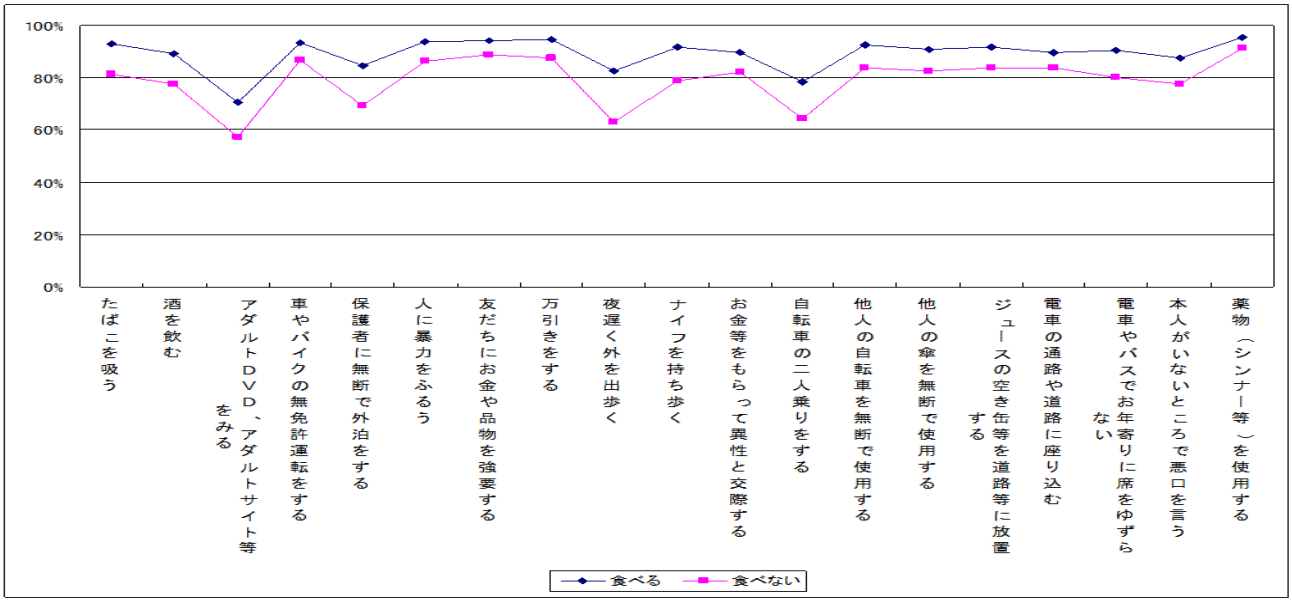
●この１０年間で、「朝食を食べる」児童生徒の割合が、全校種で増加（次ページ【表３】参照）。

●「朝食を食べない」割合は、小５で1.7%、中２で3.0%、高２で5.9%。

【表３】「朝食を食べる」児童生徒の校種別・年度別割合

対象＼年度	Ｈ１４	Ｈ１９	Ｈ２４
小学５年生	94.8%	97.9%	98.1%
中学２年生	93.3%	96.4%	97.1%
高校２年生	90.7%	91.9%	93.6%
全児童生徒	92.8%	95.5%	96.3%

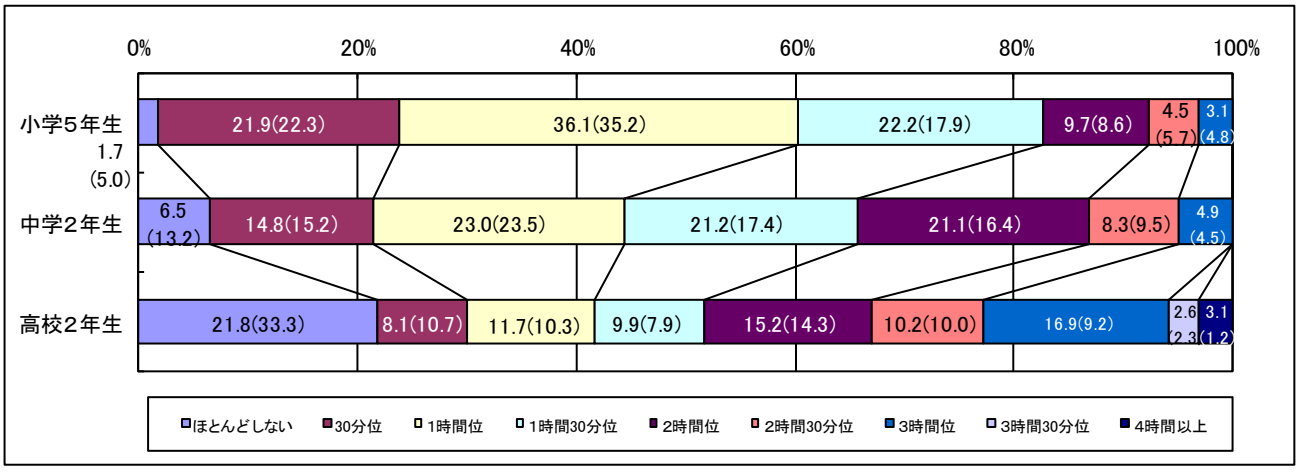
＜「朝食を食べる」割合１０年間の変化＞
小５・・・3.3 ポイント増加
中２・・・3.8 ポイント増加
高２・・・2.9 ポイント増加
全・・・・3.5 ポイント増加



【図８】　「朝食を食べる」ことと「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」（クロス集計）

●「朝食を食べる」と回答した児童生徒の方が、規範意識が高い傾向にある。

（４）学習時間　　報告書 p. 67



【図９】下校後の学習時間（塾等での学習時間を含む）

【表４】「小５で１時間以上、中２で１時間半以上、高２で２時間以上の学習」の年度別割合

対象＼年度	Ｈ１４	Ｈ１９	Ｈ２４
小学５年生	53.9%	72.2%	75.6%
中学２年生	34.0%	47.8%	55.5%
高校２年生	39.6%	37.0%	48.0%

＜「一定時間以上の学習」の１０年間の変化＞
小５・・・21.7 ポイント増加
中２・・・21.5 ポイント増加
高２・・・8.4 ポイント増加

●この１０年間で、全校種とも下校後の学習時間（塾等での時間を含む）が増加。（【表４】参照）
●高２では「ほとんどしない」という回答が最も多く（２１．８％）、過去２回の調査に続き３回連続で一番多い。この１０年間では、10.2 ポイント減少（次ページ【表５】参照）。

【表５】校種別・年度別の「下校後の学習時間」上位３項目

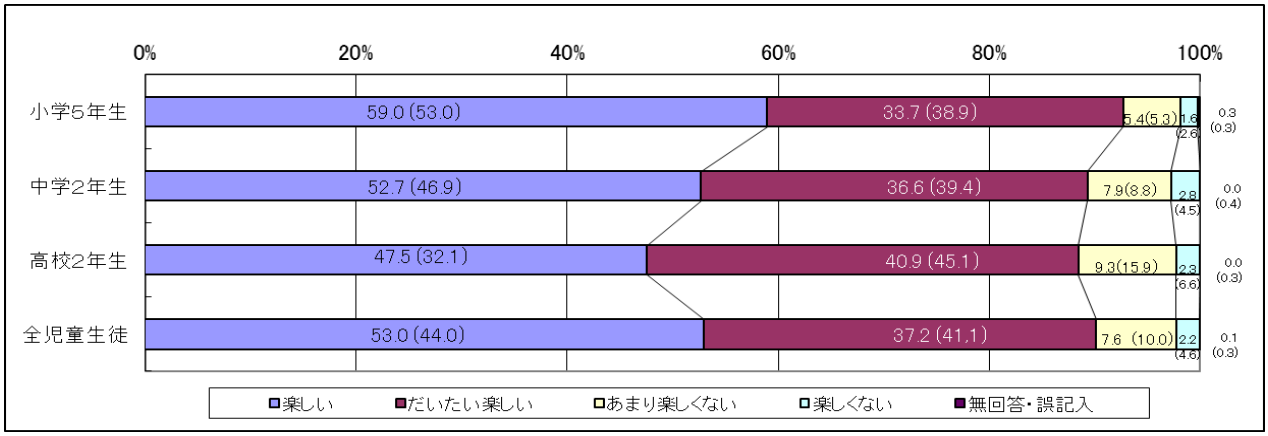
	順位	平成１４年度		平成１９年度		平成２４年度	
小５	１	３０分位	（34.8%）	１時間位	（35.2%）	１時間位	（36.1%）
	２	１時間位	（22.8%）	３０分位	（22.3%）	１時間３０分位	（22.2%）
	３	１時間３０分位	（13.5%）	１時間３０分位	（17.9%）	３０分位	（21.9%）
中２	１	ほとんどしない	（22.8%）	１時間位	（23.5%）	１時間位	（23.0%）
	２	３０分位	（22.0%）	１時間３０分位	（17.4%）	１時間３０分位	（21.2%）
	３	１時間位	（21.0%）	２時間位	（16.4%）	２時間位	（21.1%）
高２	１	ほとんどしない	（32.0%）	ほとんどしない	（33.3%）	ほとんどしない	（21.8%）
	２	２時間位	（16.4%）	２時間位	（14.3%）	３時間位	（16.9%）
	３	１時間位	（11.3%）	３０分位	（10.7%）	２時間位	（15.2%）

３　学校生活

○この１０年間で、「学校生活が楽しい」と感じている児童生徒の割合が増えています。
○「学校生活が楽しい」と感じている児童生徒の方が、規範意識が高い傾向にあります。

＜調査内容＞
「学校の楽しさ」「学校生活で満足していること」など
＜調査結果＞
①「学校が楽しい」割合が全校種で増加（１０年間で、平均 9.9 ポイント増加）。
②「学校生活で満足している」ことで最も多いのは、全校種で「友だちがいる」ことである。

（１）学校の楽しさ　報告書 pp. 82～84



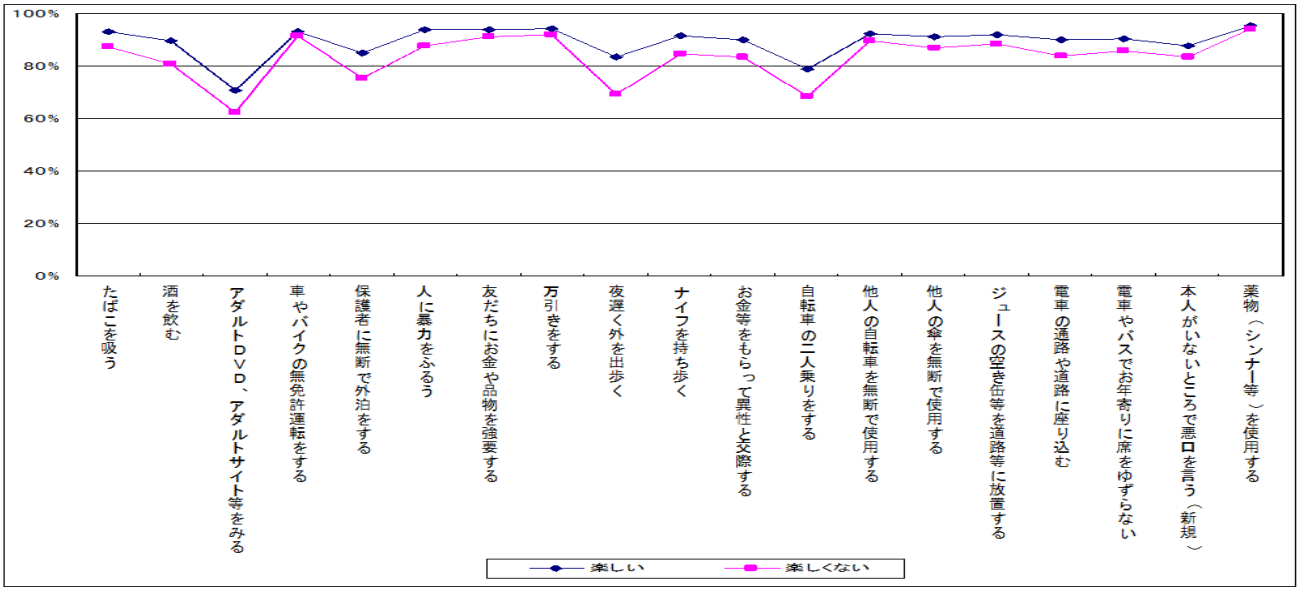
【図１０】学校の楽しさ

【表６】「学校が楽しい」と回答した児童生徒の校種別・年度別割合

対象＼年度	Ｈ１４	Ｈ１９	Ｈ２４
小学５年生	83.5%	91.9%	92.7%
中学２年生	81.5%	86.3%	89.3%
高校２年生	75.4%	77.2%	88.4%
全児童生徒	80.3%	85.1%	90.2%

＜「学校が楽しい」割合１０年間の変化＞
小５・・・9.2 ポイント増加
中２・・・7.8 ポイント増加
高２・・・13.0 ポイント増加
全・・・・9.9 ポイント増加

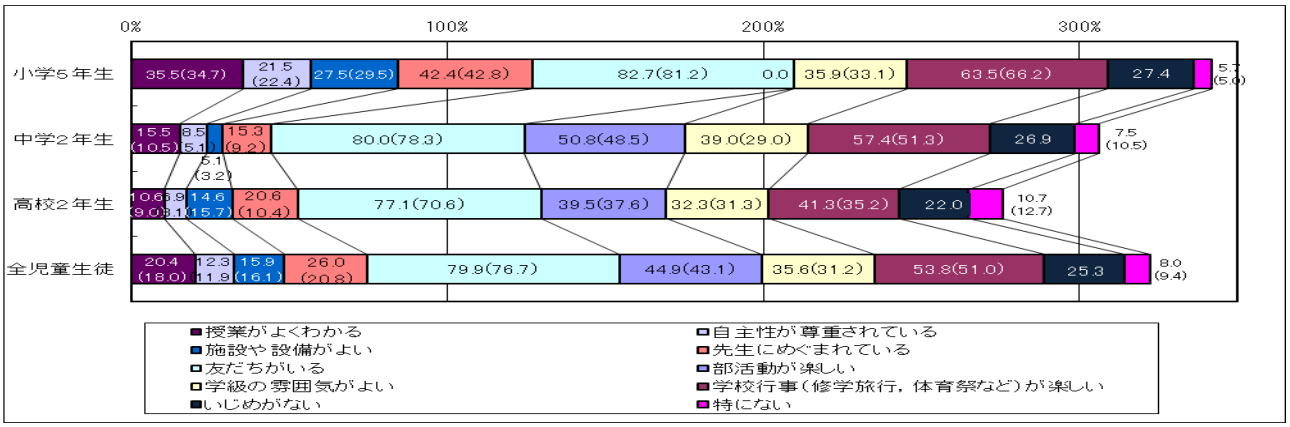
●全児童生徒の 90.2%が「学校が楽しい」と回答。この１０年間で 9.9 ポイント増加（【表６】参照）。
（校種別では小学校 92.7%、中学校 89.3%、高校 88.4%で、全校種ともにこの１０年間で増加）
＊過去２回の集計と同じように、「楽しい」と「だいたい楽しい」の回答を合わせて「学校生活が楽しい」の回答としている。
●「学校が楽しくない」児童生徒が全児童生徒の 9.8%。この１０年間で 8.9 ポイント減少しているものの、約１割の児童生徒が「学校が楽しくない」と感じている（【図１０】参照）。
（校種別では、小学校 7.0%、中学校 10.7%、高校 11.6%で、全校種ともにこの１０年間で減少）



【図１１】　「学校生活の楽しさ」と「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」（クロス集計）

●「学校が楽しい」と回答した児童生徒の方が、規範意識が高い傾向にある。

（２）学校生活で満足していること　※複数回答のため 100%を超えている。　報告書 p. 85



【図１２】学校生活で満足していること

【表７】「学校生活で満足していること」の校種別・年度別上位５項目（「いじめがない」は今回新設）

	順位	平成１４年度	平成１９年度	平成２４年度
小５	1	友だちがいる　(83.7%)	友だちがいる　(81.2%)	友だちがいる　(82.7%)
	2	学校行事が楽しい　(63.0%)	学校行事が楽しい　(66.2%)	学校行事が楽しい　(63.5%)
	3	先生にめぐまれている (43.4%)	先生にめぐまれている (42.8%)	先生にめぐまれている (42.4%)
	4	施設設備がよい　(32.6%)	授業がよくわかる　(34.7%)	学級の雰囲気がよい　(35.9%)
	5	学級の雰囲気がよい　(32.2%)	学級の雰囲気がよい　(33.1%)	授業がよくわかる　(35.5%)
中２	1	友だちがいる　(81.9%)	友だちがいる　(78.3%)	友だちがいる　(80.0%)
	2	学校行事が楽しい　(55.9%)	学校行事が楽しい　(51.3%)	学校行事が楽しい　(57.4%)
	3	部活動が楽しい　(49.0%)	部活動が楽しい　(48.5%)	部活動が楽しい　(50.8%)
	4	学級の雰囲気がよい　(28.7%)	学級の雰囲気がよい　(29.0%)	学級の雰囲気がよい　(33.1%)
	5	先生にめぐまれている (12.6%)	授業がよくわかる　(10.5%)	いじめがない　(26.9%)
高２	1	友だちがいる　(77.4%)	友だちがいる　(70.6%)	友だちがいる　(77.1%)
	2	部活動が楽しい　(33.6%)	部活動が楽しい　(37.6%)	学校行事が楽しい　(41.3%)
	3	学校行事が楽しい　(32.9%)	学校行事が楽しい　(35.2%)	部活動が楽しい　(39.5%)
	4	学級の雰囲気がよい　(24.8%)	学級の雰囲気がよい　(31.3%)	学級の雰囲気がよい　(32.3%)
	5	特にない　(12.4%)	施設設備がよい　(15.7%)	いじめがない　(22.0%)

●学校生活で満足していることで最も多いのは、この１０年間、全校種「友だちがいる」ことである。

●学年が上がるにつれて、満足していることの合計割合が減少している（【図１２】参照）。

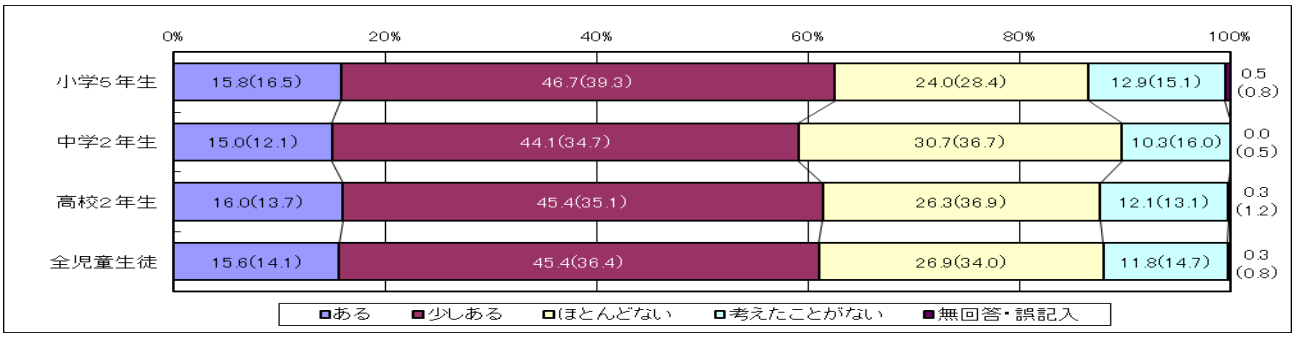
●満足していることが「特にない」という児童生徒が、全体で１割近くおり、学年が上がるにつれて増えている（小５の 5.7%、中２の 7.5%、高２の 10.7%　【図１２】参照）。

4　社会生活

○この１０年間で、「ボランティア活動への関心」が全校種で増加しています。
○この５年間で「メールのやりとりの経験がある」児童生徒は、小・中学生では減少しているが、高校生では高い割合のままで増加しています。＊「メールのやりとりの経験」は、５年前からの調査。

＜調査内容＞
「ボランティア活動への関心」「メールのやりとりの経験」など
＜調査結果＞
①「ボランティア活動への関心」に、「ある」または「少しある」と回答した割合が、全校種で増加している（１０年間で、小５で4.8ポイント、中２で7.5ポイント、高２で3.6ポイント増）。
②「メールのやりとりの経験」は、この5年間で、小5と中2で減少し、高2で増加している。

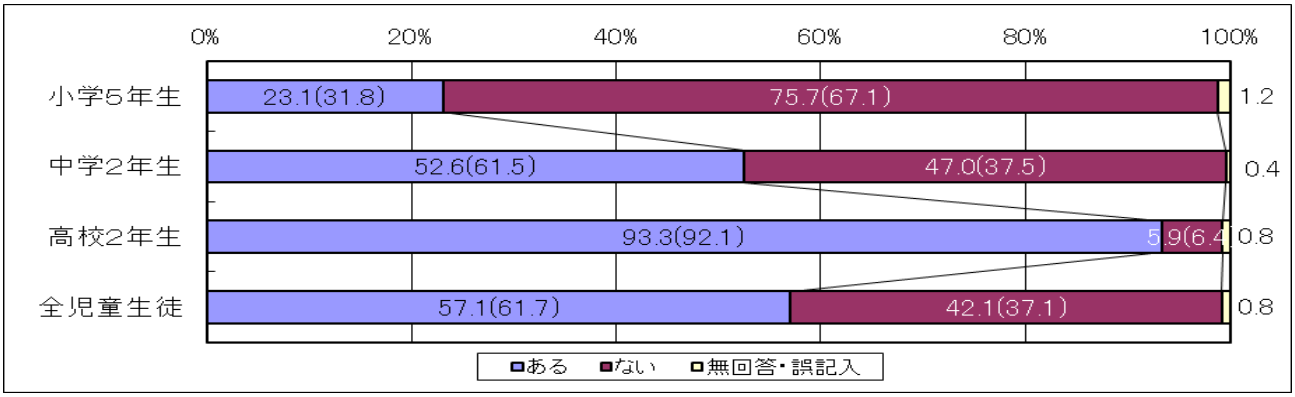
（１）ボランティア活動への関心　　報告書 pp. 109～112



【図１３】ボランティア活動への関心

●「ボランティア活動への関心」が「ある」「少しある」と回答した割合は、児童生徒全体でみると 61.0%で、５年前と比較すると 10.5 ポイント増加している。

（２）メールのやりとりの経験　　報告書 pp. 114～115



【図１４】メールのやりとりの経験（※高２は１０年前から、小５と中２は５年前から調査）

【表８】　「メールの経験あり」の校種別・年度別比較

対象＼年度	H14	H19	H24
小学5年生		31.8%	23.1%
中学2年生		61.5%	52.6%
高校2年生	73.2%	92.1%	93.3%

●「メールのやりとりの経験がある」高校生の割合は 93.3%で、この１０年間で 20.1 ポイント増加。
●小・中学生は、それぞれ 23.1%、52.6%で、この５年間でそれぞれ、8.7 ポイント、8.9 ポイント減少（【図 14】、【表８】参照）。

【表９】「見ず知らずの人とのメール経験あり」の校種別・年度別比較

対象＼年度	H14	H19	H24
小学5年生		2.1%	0.5%
中学2年生		11.4%	9.2%
高校2年生	42.9%	49.8%	31.7%

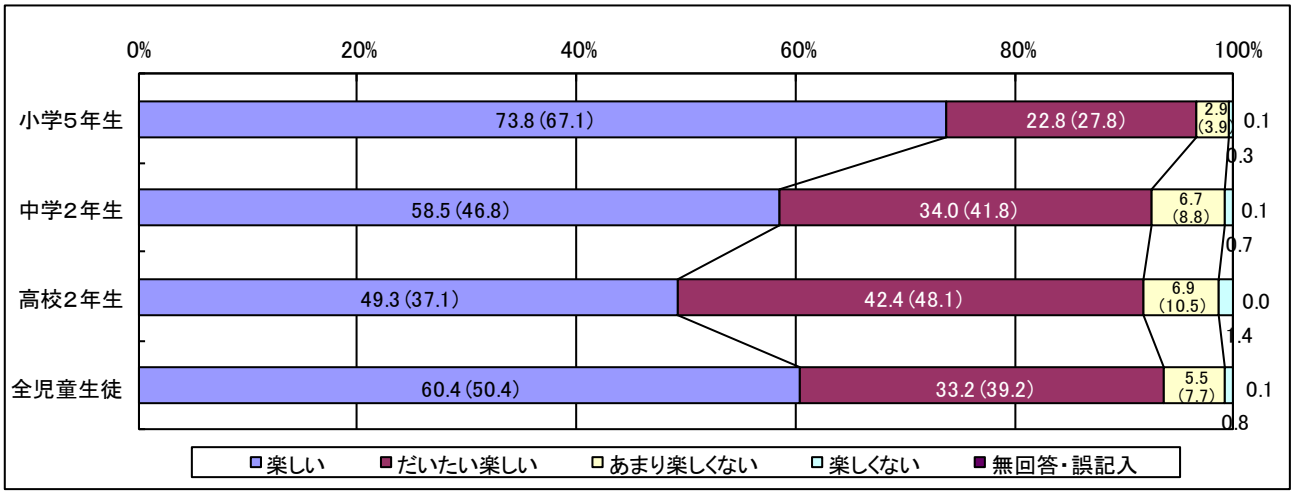
●「見ず知らずの人とメールのやりとりをしたことがある」児童生徒は、小５が 0.5%、中２が 9.2%、高２が 31.7%で、この５年間で、小５は 1.6 ポイント、中２は 2.2 ポイント、高２は 18.1 ポイント減少（【表９】参照）。

家　庭　温もりの中で社会性の基本をはぐくむ場に

○　温もりのある家庭をつくりましょう

家庭は子どもが育つ基盤です。家族の愛情の中で育った子どもは、自分が大切にされていることを実感し、自分も他人も大切にすることができます。このことが子どもの生きていく力をはぐくみます。

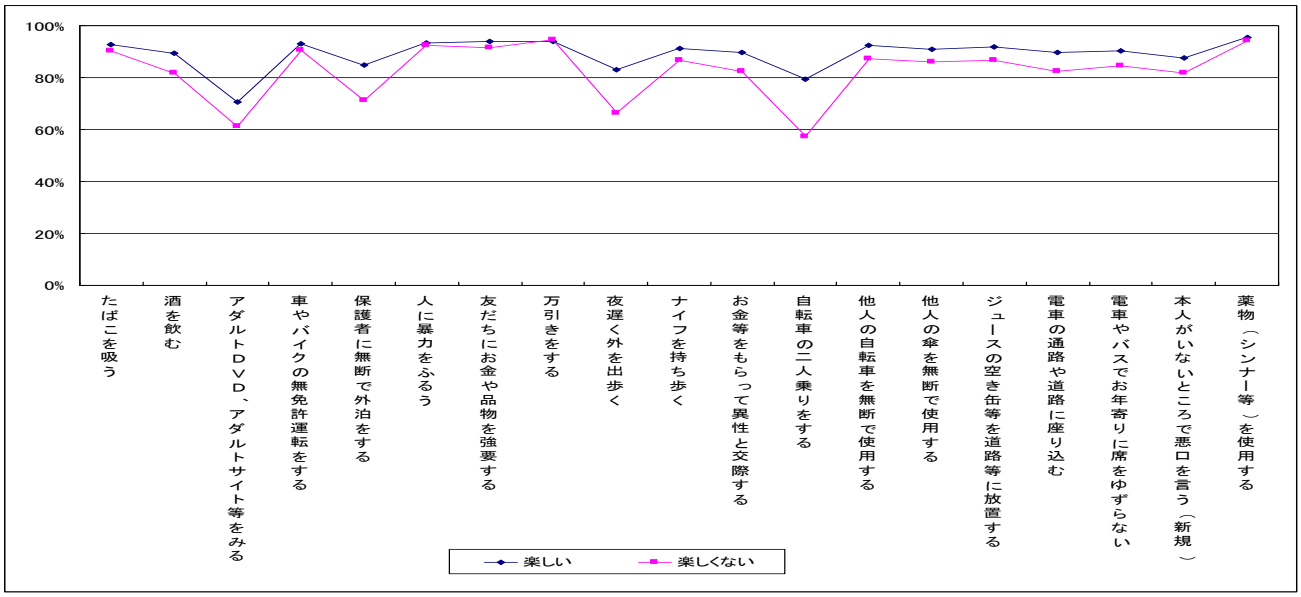
◇「家庭の楽しさ」　報告書 p. 59



全児童生徒の 93.6%が「楽しい」「だいたい楽しい」と回答している。平成 19 年度と比較すると、「楽しい」「だいたい楽しい」と回答した割合が増加している（小５　1.7 ポイント増、中２　3.9 ポイント増、高２　6.5 ポイント増）。

◇「家庭の楽しさ」と「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」　報告書 p. 60

「家庭の楽しさ」を「楽しい」（「楽しい」、「だいたい楽しい」）と回答した群と、「楽しくない」（「あまり楽しくない」、「楽しくない」）と回答した群の二つに分けたとき、各項目に対して「悪い」（「とても悪い」、「どちらかと言えば悪い」）と回答した児童生徒の割合（全児童生徒）

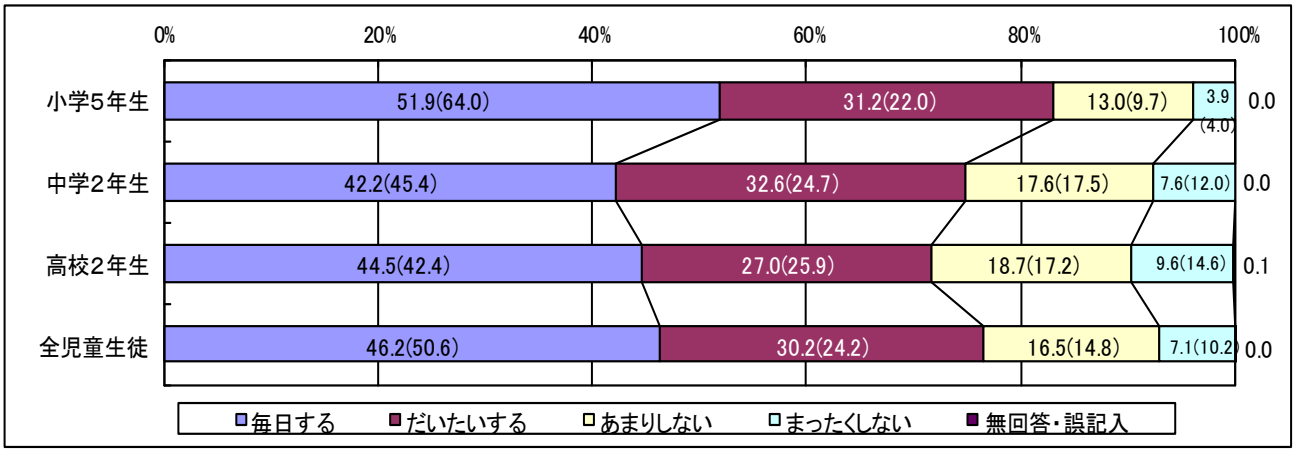


「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」について「悪い」と回答した児童生徒の割合は、家庭生活を「楽しい」と回答した群が、「楽しくない」と回答した群よりも 19 項目中 18 項目において高い。

○　規律ある生活習慣を定着させましょう

あいさつ等のマナーや毎日の学習習慣など、規律ある生活習慣を定着させることは大切なことです。基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせることが、社会の一員となるための基盤をつくります。

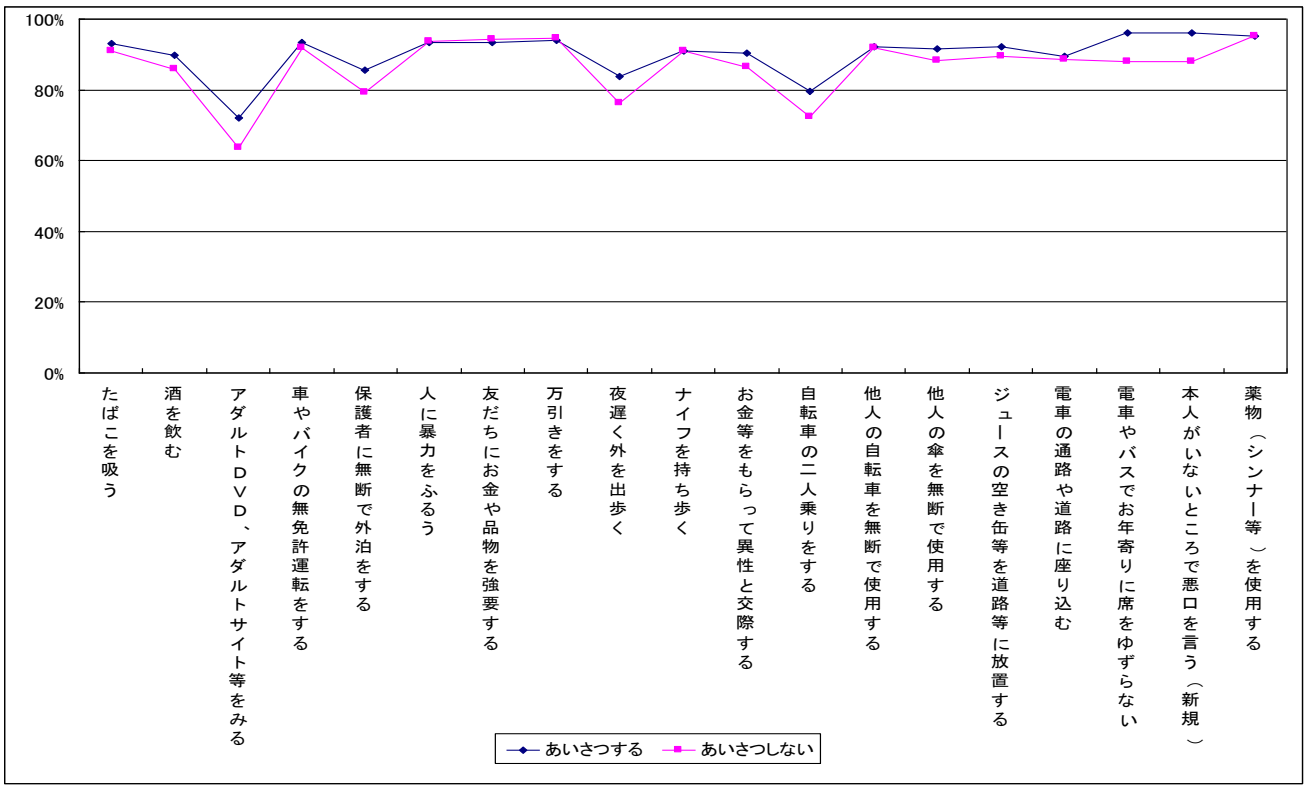
◇「朝のあいさつ」　報告書 p. 61



「毎日する」「だいだいする」と回答した割合は、学年が上がるにつれて減少している。これは平成 19 年度と同様の傾向であるが、中２と高２では、あいさつを「毎日する」「だいたいする」と回答した割合が増加している（中２　4.7 ポイント増、高２　3.2 ポイント増）。

◇「朝のあいさつ」と「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」　報告書 p. 62

「朝のあいさつ」を「する」（「毎日する」、「だいたいする」）と回答した群と、「しない」（「あまりしない」、「まったくしない」）と回答した群の二つに分けたとき、各項目に対して「悪い」（「とても悪い」、「どちらかと言えば悪い」）と回答した児童生徒の割合（全児童生徒）



「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」について「悪い」と回答した児童生徒の割合は、「あいさつをする」と回答した群が、「あいさつをしない」と回答した群よりも 19 項目中 15 項目において高い。

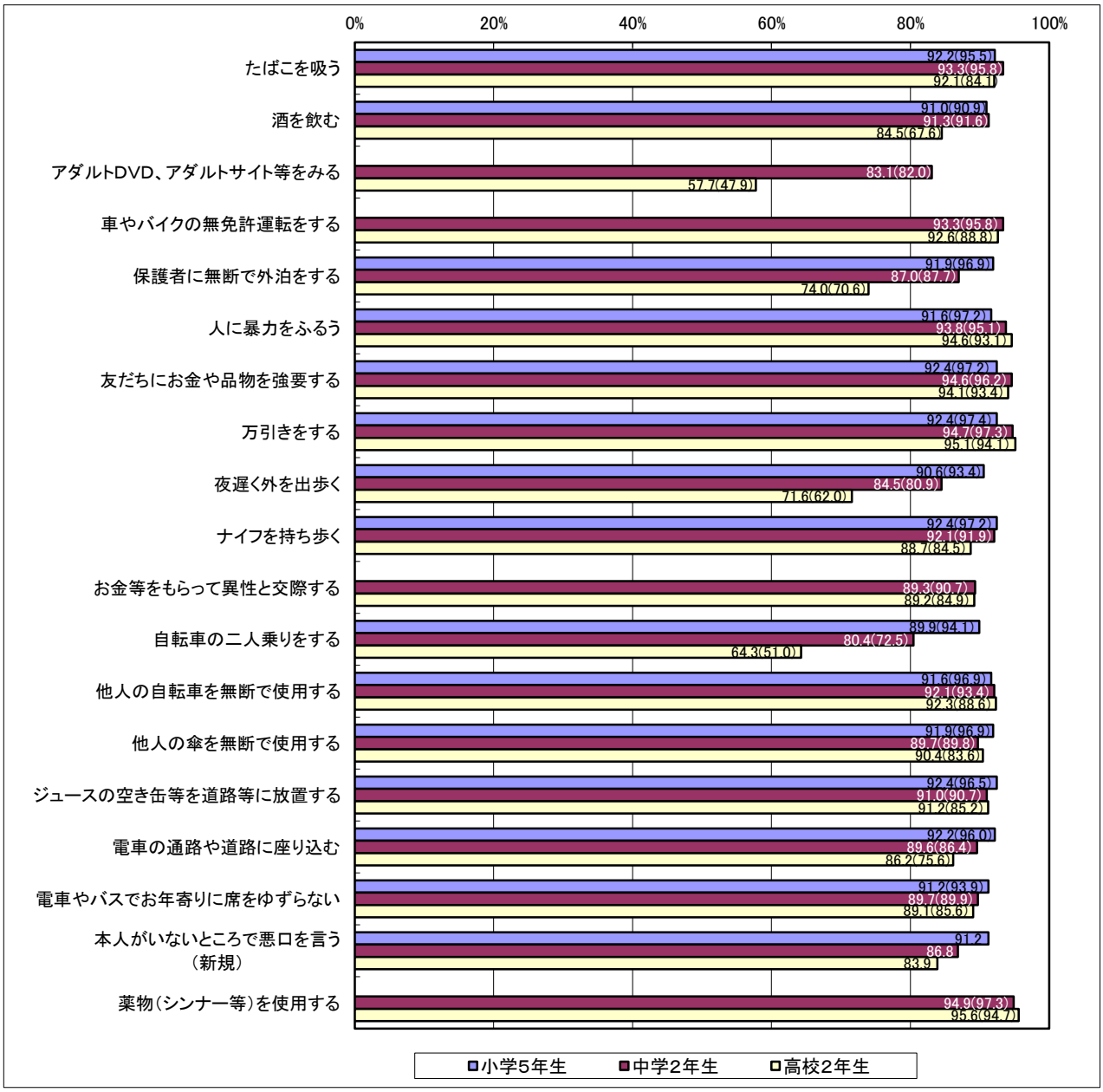
【参考】「朝食の有無」と「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」のクロス集計結果については、本ダイジェスト版の６ページを、また報告書では 65 ページをご参照ください。

○　善悪の判断ができる子どもに育てましょう

自分で考えて、判断し、行動できる力を養うことは大切なことです。社会における基本的なルールを日頃から家庭でしっかりと教えることで、善悪を正しく判断し、行動できる子どもが育ちます。

◇「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」　報告書 pp. 25～34

各項目に対して「とても悪い」「どちらかといえば悪い」と回答した割合（全児童生徒）



小５は 15 項目中 14 項目で「とても悪い」「どちらかといえば悪い」と回答した割合が 90％を超え、平均 91.7％である。

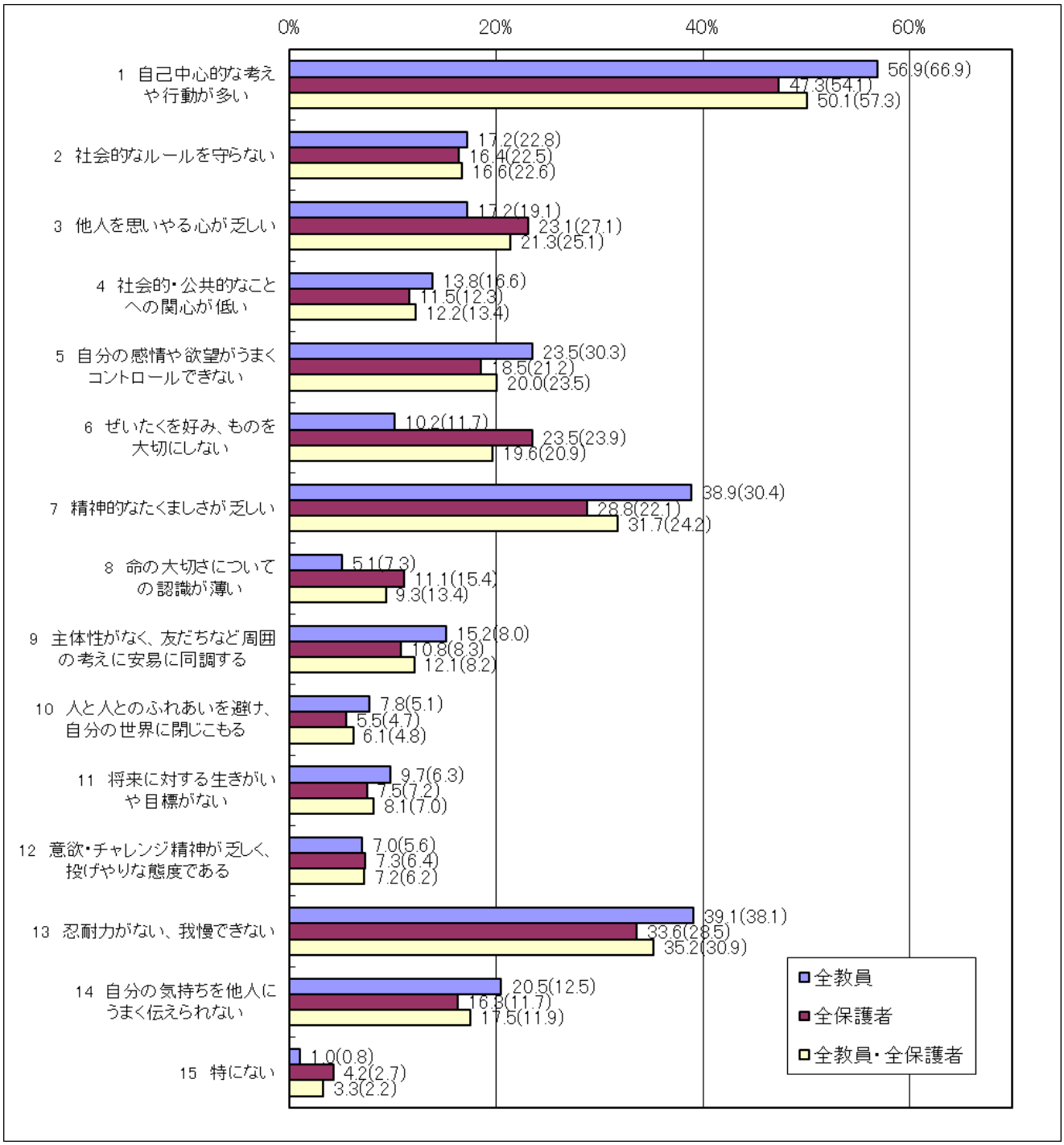
中２は 19 項目中 10 項目で「とても悪い」「どちらかといえば悪い」と回答した割合が 90％を超え、平均 90.1％である。

高２は 19 項目中９項目で「とても悪い」「どちらかといえば悪い」と回答した割合が 90％を超え、平均 85.6％である。

平成 19 年度は、ほとんどの項目で学年が上がるほど「とても悪い」「どちらかといえば悪い」と回答した割合が低くなっていたが、平成 24 年度は「人に暴力をふるう」「万引きをする」「他人の自転車を無断で使用する」「薬物（シンナー等）を使用する」の４項目において学年が上がるほど「とても悪い」「どちらかといえば悪い」と回答した割合が高い。また、平成 19 年度と比較して、全体的に小５で割合が低くなっている項目が多く、高２で割合が高くなっている項目が多い。ただし、今回の調査では小５の「無回答・誤記入」の割合が増えている。

◇「現在の青少年の憂慮すべき点」　報告書 pp. 128～129

（教員・保護者）



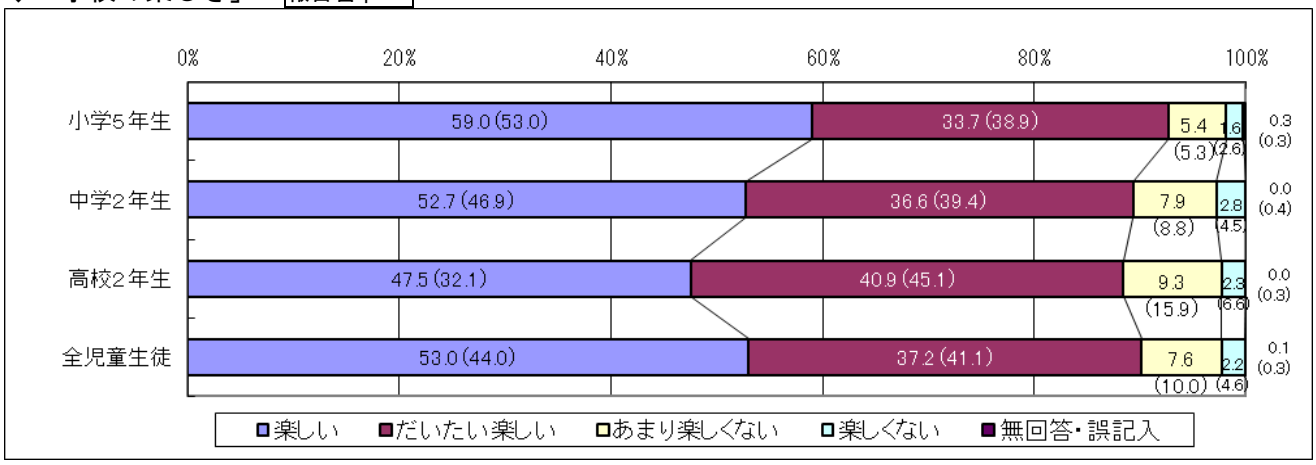
全教員・全保護者を合わせた回答割合が高い順に、「自己中心的」（50.1%）、「忍耐力がない」（35.2%）、「精神的たくましさが乏しい」（31.7%）、「思いやる心が乏しい」（21.3%）、「感情をコントロールできない」（20.0%）である。平成 19 年度と上位５項目は同じ内容である。

学　校　　夢をはぐくみ生きる力を育てる場に

○　集団生活のルールのもとで、学校生活を充実させましょう

学校では、生活規律と学習規律を定着させることで、すべての子どもが楽しく安心して学ぶことができます。集団生活のルールを共有させることが、学校生活の充実につながります。

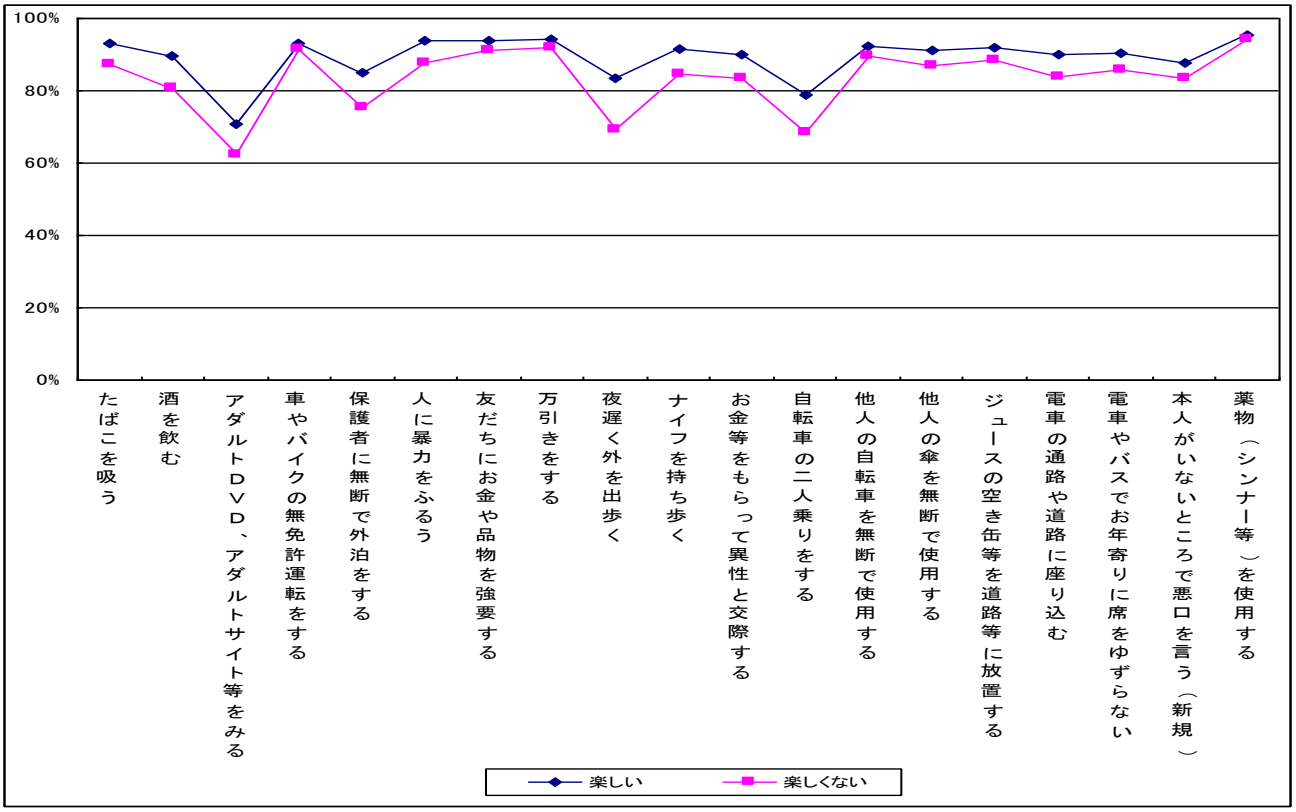
◇「学校の楽しさ」　報告書 p. 82



学校生活が「楽しい」「だいたい楽しい」と回答した割合は、小５　92.7%、中２　89.3%、高２　88.4%である。平成19年度と比較すると、それぞれ0.8ポイント、3.0ポイント、11.2ポイント増加しており、高２が特に増加している。「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した割合は、平成19年度と比較すると高２は半減している。

◇「学校の楽しさ」と「日常生活での友だちの行為に対する善悪の判断」　報告書 p. 83

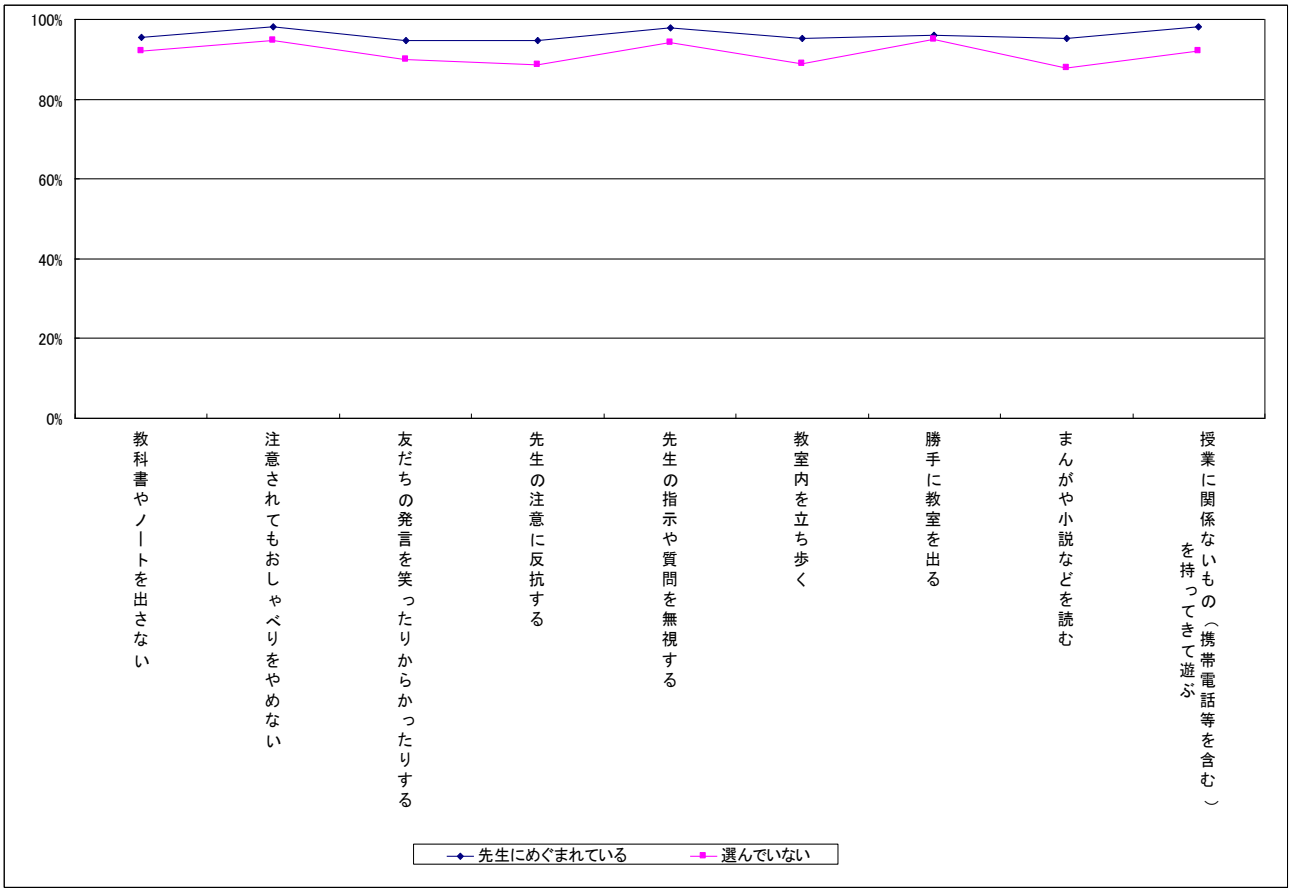
「学校の楽しさ」を「楽しい」（「楽しい」「だいたい楽しい」）と回答した群と、「楽しくない」（「あまり楽しくない」「楽しくない」）と回答した群の二つに分けたとき、各項目に対して「悪い」（「とても悪い」「どちらかと言えば悪い」）と回答した児童生徒の割合（全児童生徒）



「楽しい」と回答した群が、「楽しくない」と回答した群よりも「悪いと思う」と回答した割合が全ての項目において高い。

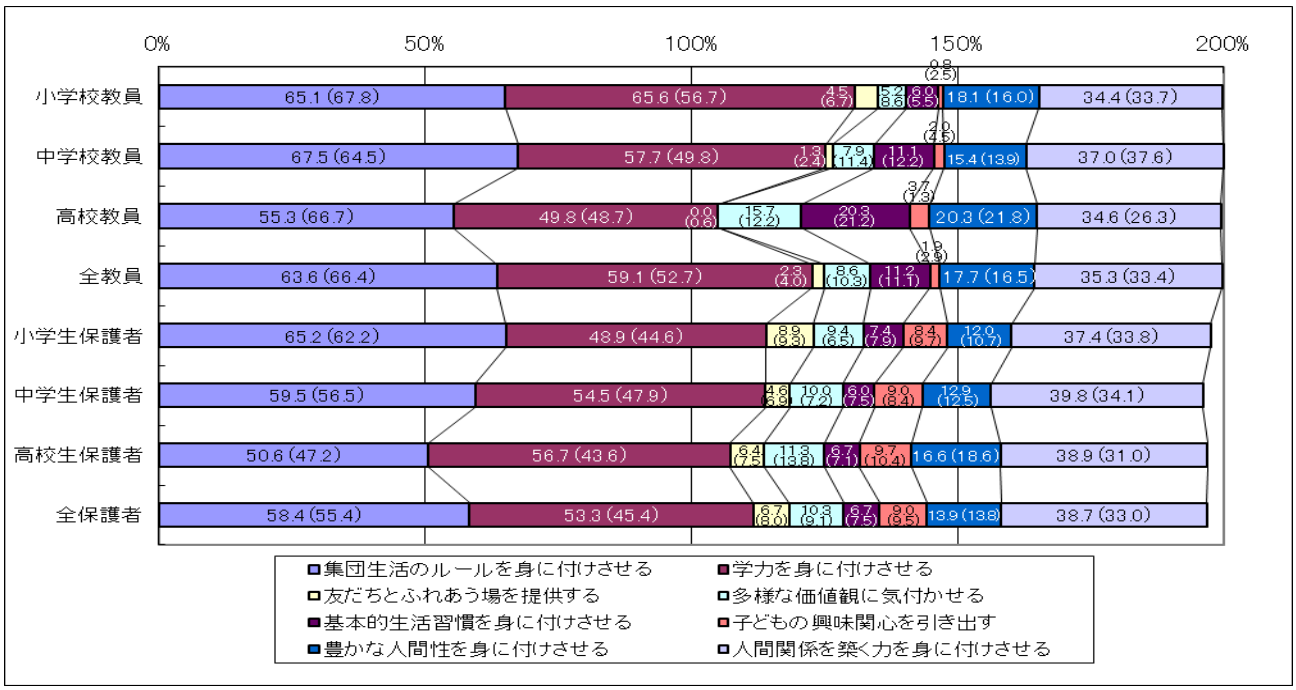
◇「先生との相性」と「授業中の行為に対する感じ方」　報告書 p. 86

「先生との相性」を「学校生活で満足していること」の選択肢で「先生にめぐまれている」を選択したものと、選択していないものとに分けたとき、「授業中の行為に対する感じ方」の各項目について、「悪い」（「とても悪い」「少し悪い」）と回答した児童生徒の割合（全児童生徒）



「先生にめぐまれている」を選択した児童生徒の群が、選択していない児童生徒の群よりも、授業中の行為の各項目について「悪い」と回答した割合が全ての項目において高い。

◇学校の役割　※複数回答のため 100%を超えている。　報告書 p. 92



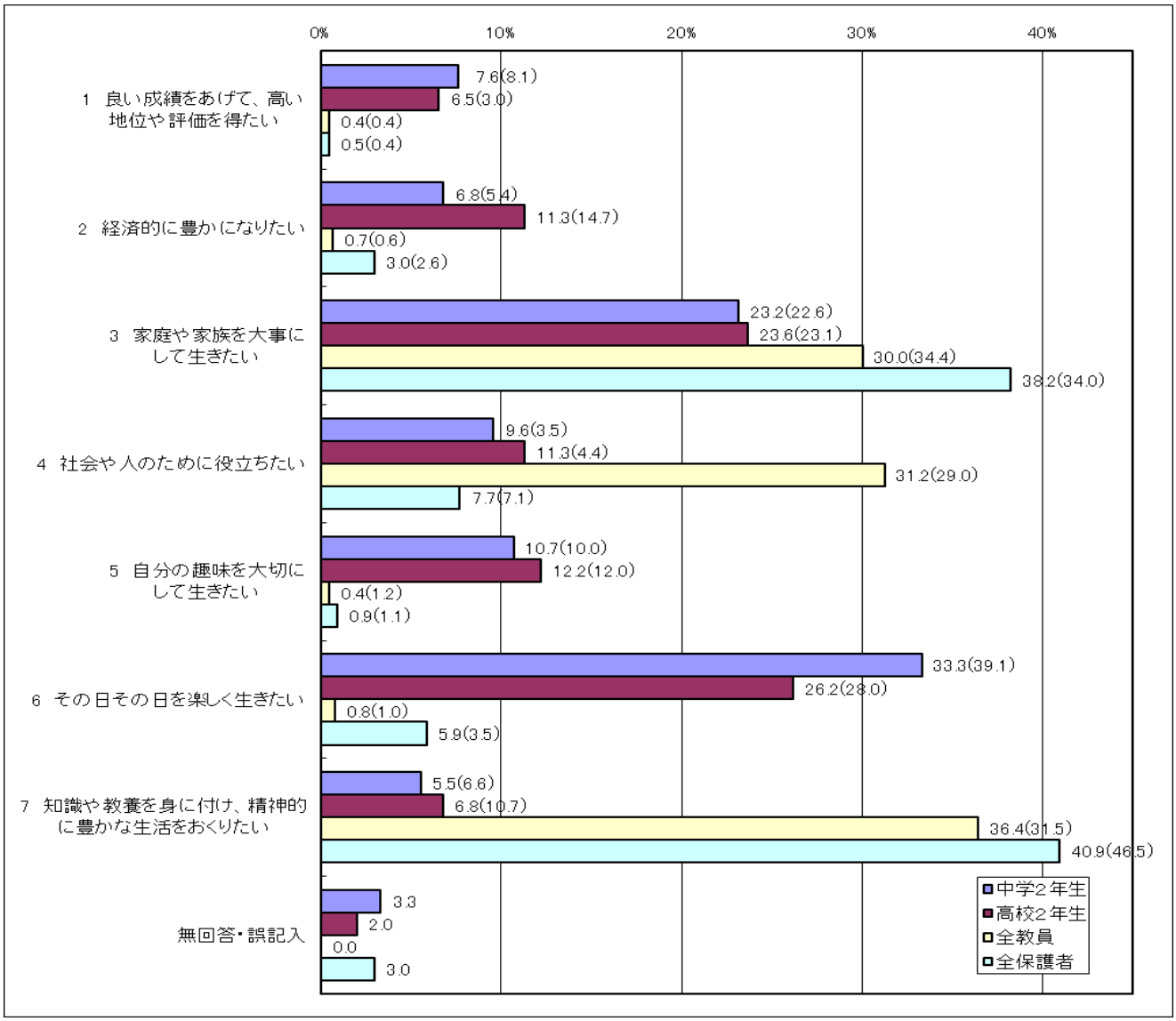
全教員と全保護者の上位３項目の回答結果は、平成 19 年度と同じ結果となり、回答割合が高い順に「集団生活のルールを身に付けさせる」（全教員 63.6%　全保護者 58.4%）、「学力を身に付けさせる」（全教員 59.1%　全保護者 53.3%）、「人間関係を築く力を身に付けさせる」（全教員 35.3%　全保護者 38.7%）である。

○　自己の生き方を見つめ、考える力を育てましょう

道徳教育の充実を図ることは高い理想を求め、希望や志を持って生きようとする態度を育てることにつながります。様々な教育活動を通して人の生き方や自然・社会・文化にふれさせることで自己の生き方を見つめ、考える力がはぐくまれます。

◇「子どもの生き方」　報告書 pp. 134～135

（中学２年生・高校２年生・教員・保護者）



人の生き方に対する考え方について、生徒（中２・高２）と大人（教員・保護者）では、選択される項目によってはその回答割合に大きな開きがあり、特に、「その日その日を楽しく生きる」や「自分の趣味を大切にして生きる」では生徒の方が、「知識や教養を身に付け、精神的に豊かな生活をおくる」では大人（教員・保護者）方の割合が高い。

中２、高２ともに回答した割合が高い順に、「その日その日を楽しく生きる」（中２　33.3%、　高２　26.2%）、「家族や家庭を大事にして生きる」（中２　23.2%、　高２　23.6%）、「自分の趣味を大切にして生きる」（中２　10.7%、高２　12.2%）である。

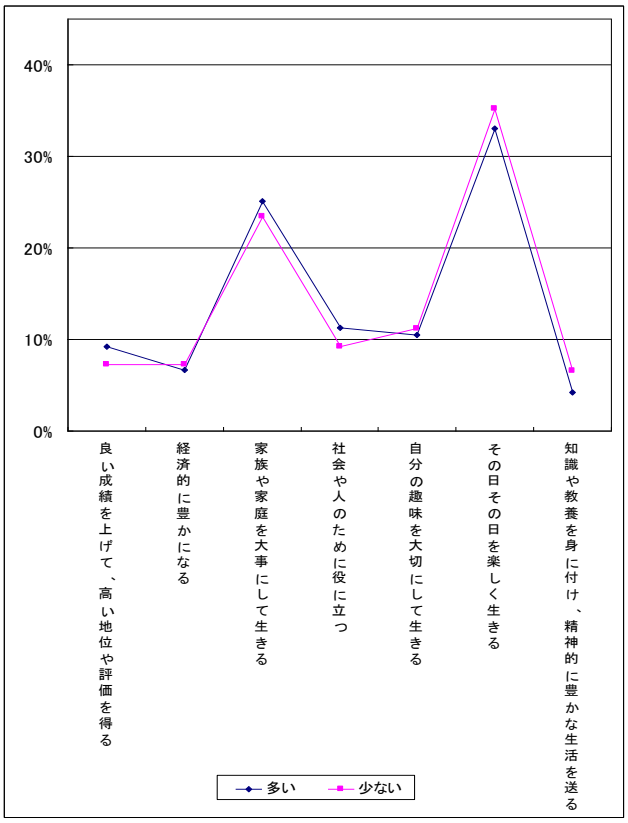
全教員の回答では、回答した割合が高い順に、「知識や教養を身に付け、精神的に豊かな生活をおくる」（36.4%）、「社会や人のためにつくす」（31.2%）、「家庭や家族を大事にして生きる」（30.0%）である。全保護者の回答では、回答した割合が高い順に、「知識や教養を身に付け、精神的に豊かな生活を送る」（40.9%）、「家庭や家族を大事にして生きる」（38.2%）、「社会や人のためにつくす」（7.7%）である。

「社会や人のために役立ちたい」の項目においては、教員と生徒・保護者との間で、差が大きい。

◇「学習時間」と「子どもの生き方」との関係　報告書 p. 136

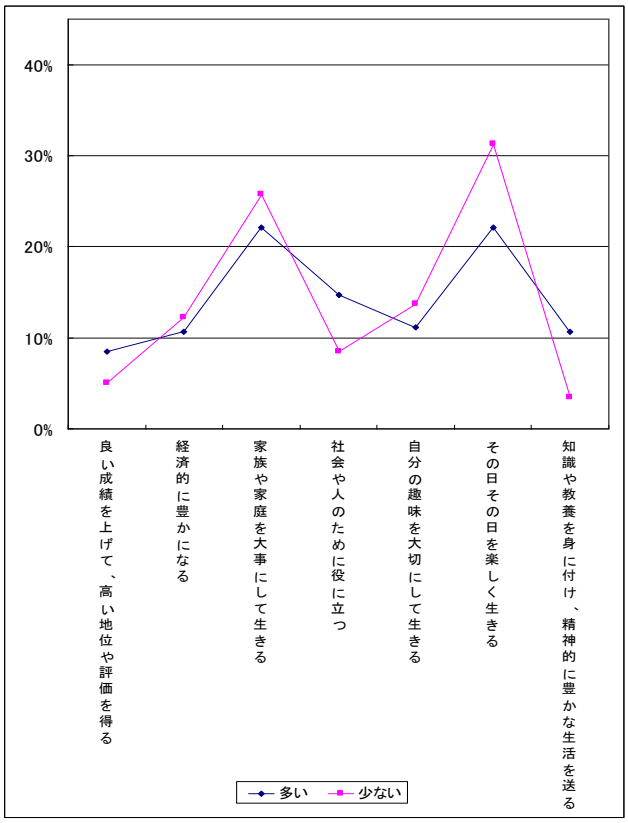
「学習時間」を、「多い」（「２時間位」以上）群と、「少ない」（「２時間位」未満）群に分けたとき、「子どもの生き方」の各回答における割合の校種別比較（小学５年生は「子どもの生き方」の設問なし）。

【中学2年生】



学習時間の「多い」群と「少ない」群を比較して「生き方に対する考え方」の差は見られない。

【高校２年生】



学習時間の「多い」群と「少ない」群を比較して、学習時間が「多い」群が「社会や人のために役に立つ」と「知識や教養を身に付け、精神的に豊かな生活を送る」と回答した割合が高く、「その日その日を楽しく生きる」と回答した割合が低い。

【参考】本調査では、保護者と教職員を対象に「２１世紀を担う青少年が身に付けるべき資質について、大切に思うものは何か」を質問しており、上位５項目の結果は以下のとおりとなっている。なお、詳細については、報告書の 130 ページを参照ください。

質問：あなたは、青少年が身に付けるべき資質は何であると思いますか。次の中から特に大切であると思うものを三つまで選んで、番号を○で囲んでください。

1　礼儀正しさ	2　自立性	3　自制心	4　責任感	5　正義感
6　忍耐力	7　創意工夫	8　寛容さ	9　協調性	10　積極性
11　競争心	12　好奇心	13　信仰心	14　思いやり	15　公共心
16　人権意識	17　指導力	18　公正さ	19　国際感覚	20　向上心
21　ボランティア精神	22　心身の健康	23　決断力	24　勤勉さ	
25　コミュニケーション能力		26　情報活用能力	27　わからない	

回答結果：上位５項目

	保護者		教　員	
1	礼儀正しさ	(41.0%)	礼儀正しさ	(37.3%)
2	思いやり	(39.8%)	忍耐力	(33.1%)
3	責任感	(39.7%)	コミュニケーション能力	(32.3%)
4	忍耐力	(28.7%)	責任感	(30.6%)
5	心身の健康	(19.1%)	思いやり	(26.4%)

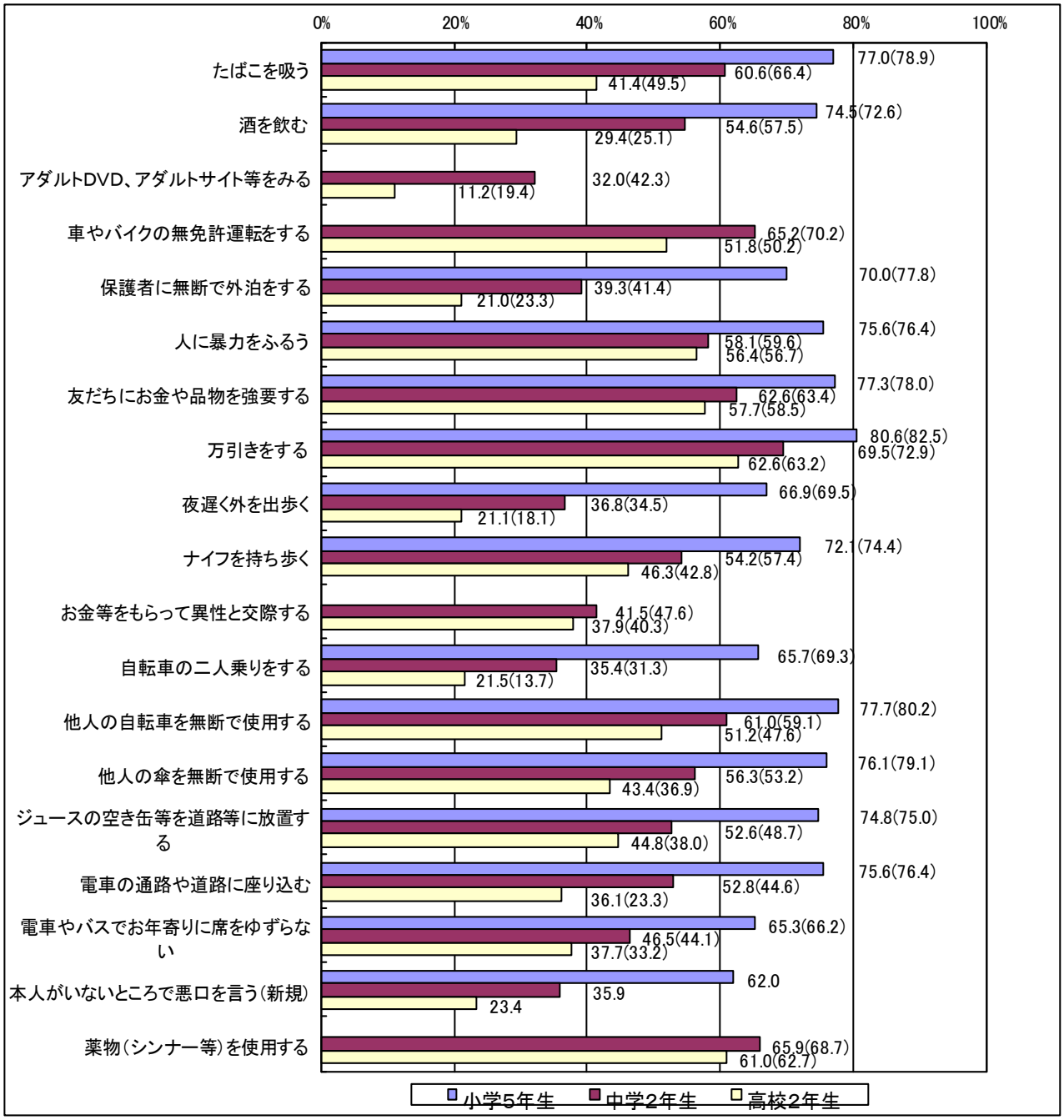
○　よりよい人間関係を築く力を育てましょう

社会で生きていくためにはたくましい心と人間関係を良好に築く力が必要です。様々な体験活動や交流活動を積極的に推進することで、集団の中でよりよい人間関係を築く力が育ちます。

◇「日常生活での友だちの行為に対する対応の仕方」　報告書 pp. 35～44

「友だちが次のような行為をしていたらどうするか」の問いに対して、注意する、一緒にする、何も言わない、わからないの四つの選択肢から一つを選ぶ問題。

（１）「注意する」と回答した割合

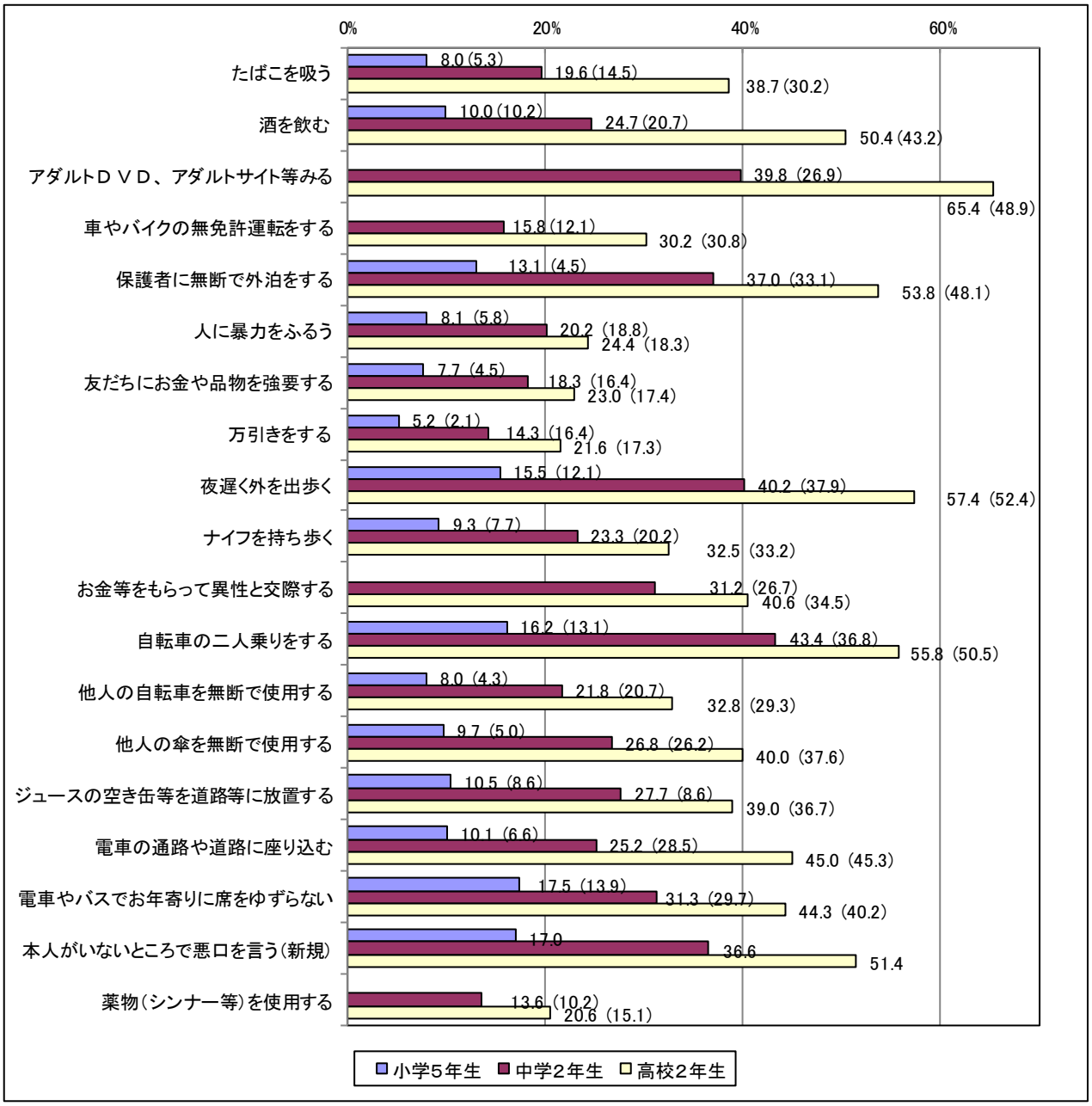


「注意する」と回答した割合は、学年が上がるにつれて低くなっている。

小５では全ての項目で「注意する」割合が 60%を超え、平均が 72.7%となっているのに対して、中２では「注意する」割合が 60%を下回る項目が全 19 項目中 13 項目あり、平均が 51.6%となっている。また、高２では「注意する」割合が 60%を下回る項目が全 19 項目中 17 項目となっており、平均が 39.8%である。

平成 19 年度と比較すると、「注意する」割合の平均が校種によっては 1～３ポイントの増減はあるが、大きな変化はない。

（２）「何も言わない」と回答した児童生徒の割合

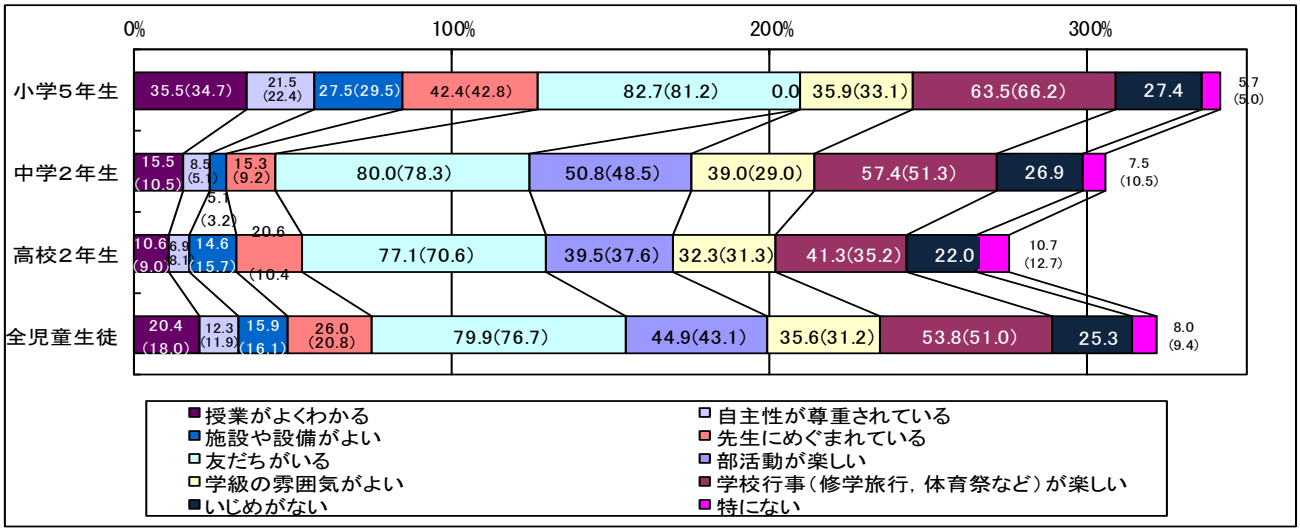


友だちの行為に対して「何も言わない」と回答した児童生徒の割合は、全ての項目において学年が上がるにつれて多くなっている（小５の平均は 10.7%、中２の平均は 26.9%、高２の平均は 40.4%）。

平成 19 年度と比較すると、全校種においてほとんどの項目でその割合が増加している（小５で平均 2.8 ポイント、中２で平均 3.2 ポイント、高２で平均 4.8 ポイント）。

また、新しく設けた項目「本人がいないところで悪口を言う」について、「何も言わない」と回答した児童生徒は、小５では 17.0%、中２では 36.6%、高２では 51.4%という結果となっており、いずれもその校種の平均回答率よりも高い。

◇「学校生活で満足していること」　※複数回答のため 100%を超えている。　報告書 p. 85



全校種ともに回答割合が最も多いのが「友だちがいる」である。次いで、小５では「学校行事が楽しい」、「先生にめぐまれている」の順に多く、中２、高２では「学校行事が楽しい」「部活動が楽しい」の順に多くなっていて、これらのことは平成 19 年度と同様の結果となっている。また、今回新設した「いじめがない」の選択は、中２、高２で５番目に多くなっている。

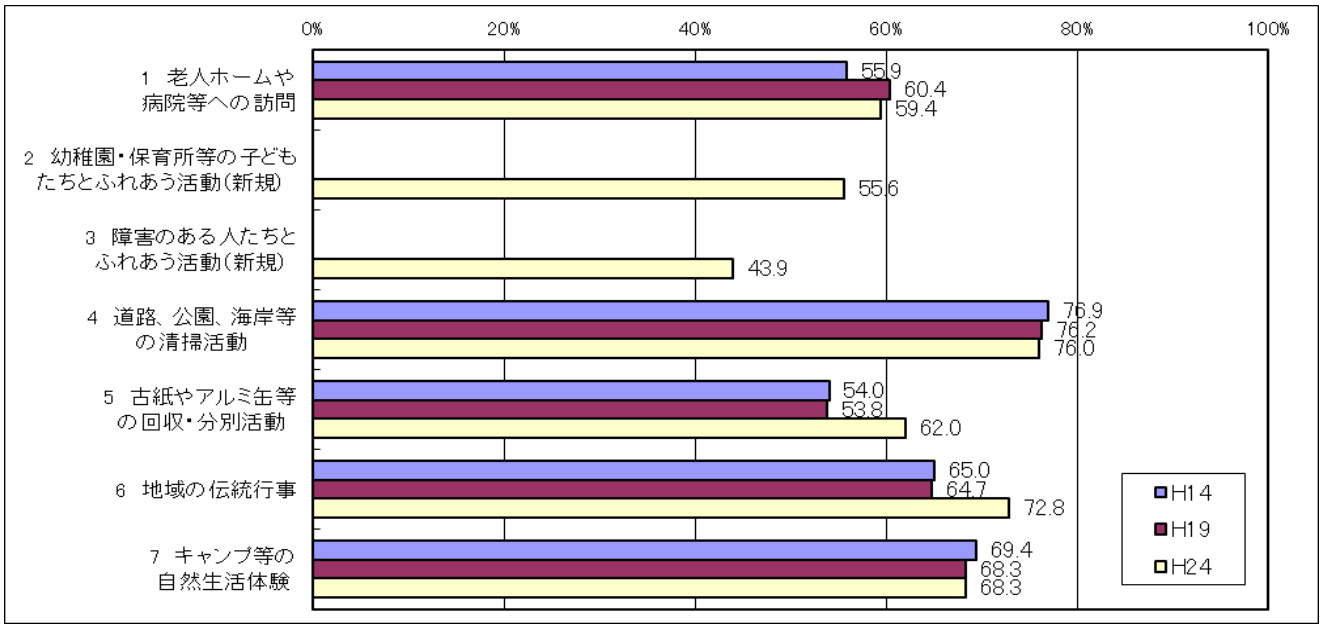
地域社会　大人のつながりで子どもが育つ場に

○　地域行事等への参画体験の場をつくりましょう

地域の行事、体験活動等に参加・参画させることは、地域の一員であることを自覚させます。地域の子どもは地域で育てるという気概を持つことが、次代を担う子どもを育てます。

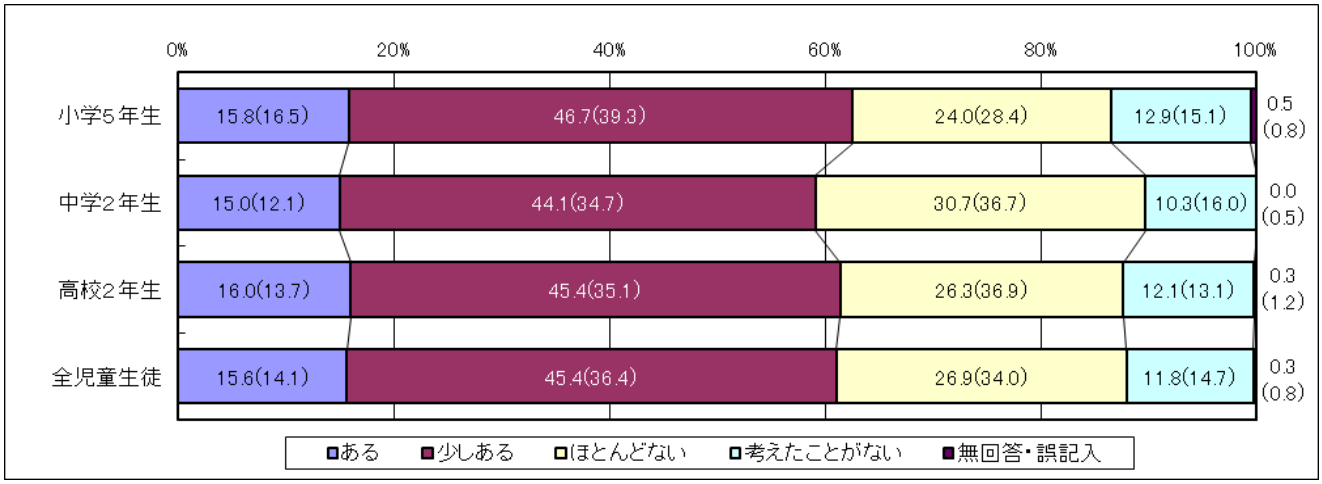
◇参加した体験活動　報告書 pp. 105～107

７項目の体験活動について、「自分から進んで参加した」「他の人にさそわれて参加した」「学校の授業や行事、町内会など地域の活動として参加した」と、理由は違っても、参加したことがあると回答した児童生徒の割合（全児童生徒）。



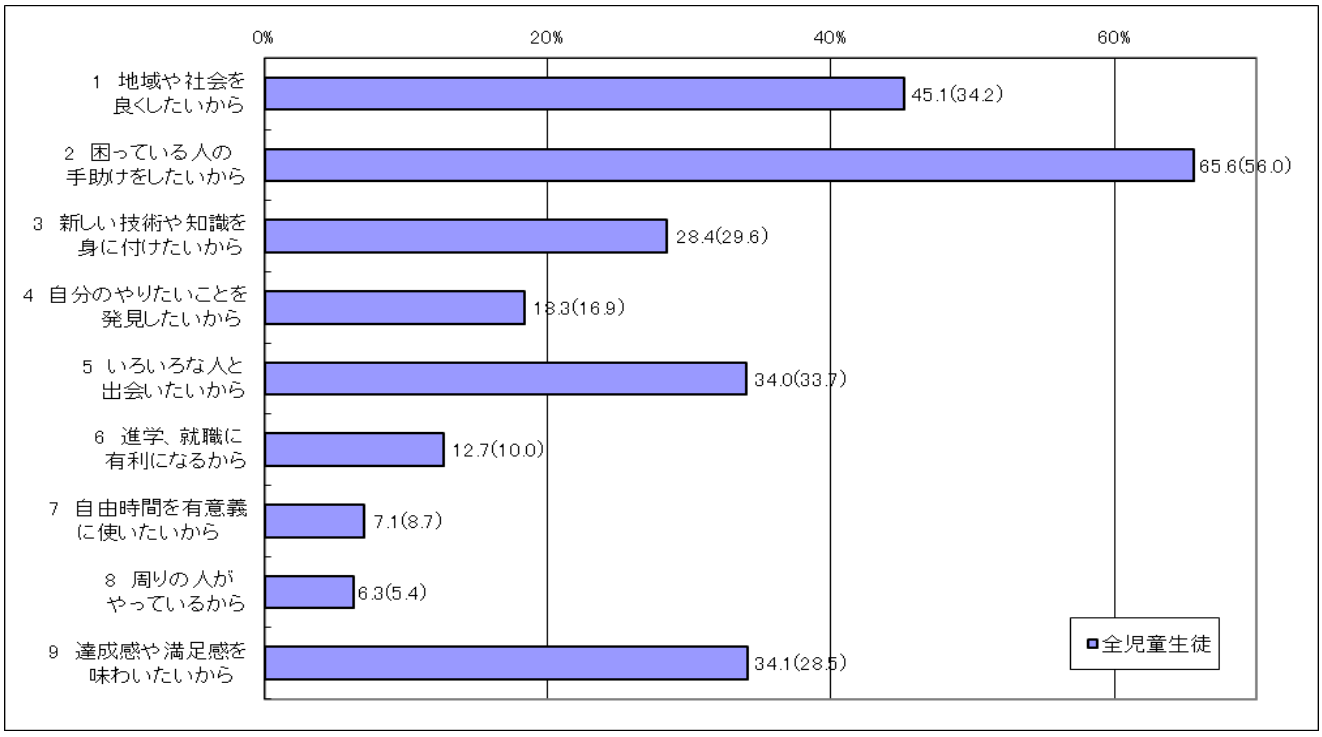
調査年度によらず、参加した割合が６割程度以上ある体験活動は、「道路、公園、海岸等の清掃活動」、「地域の伝統行事」、「キャンプ等の自然生活体験」、「老人ホームや病院等への訪問」となっている。「地域の伝統行事」への参加と「古紙やアルミ缶等の回収・分別活動」は、この５年間で参加割合が８ポイントほど増えている。

◇ボランティア活動への関心　報告書 pp. 109～111



全児童生徒の回答を集計した結果、「ある」または「少しある」と回答した割合は、合計で 61.0%であり、平成 19 年度と比較して、10.5 ポイント増加している。

◇ボランティア活動への関心の理由　報告書 p. 112



上どのような気持ちからボランティア活動に興味や関心があるのかをたずねたところ、「困っている人の手助けをしたいから」が、65.6%と最も多く、次に「地域や社会を良くしたいから」が 45.1%となっている。これは平成 19 年度と同じ順序であるが、いずれもその割合が 10 ポイントほど増え、10 年前と同じぐらいの割合になっている。

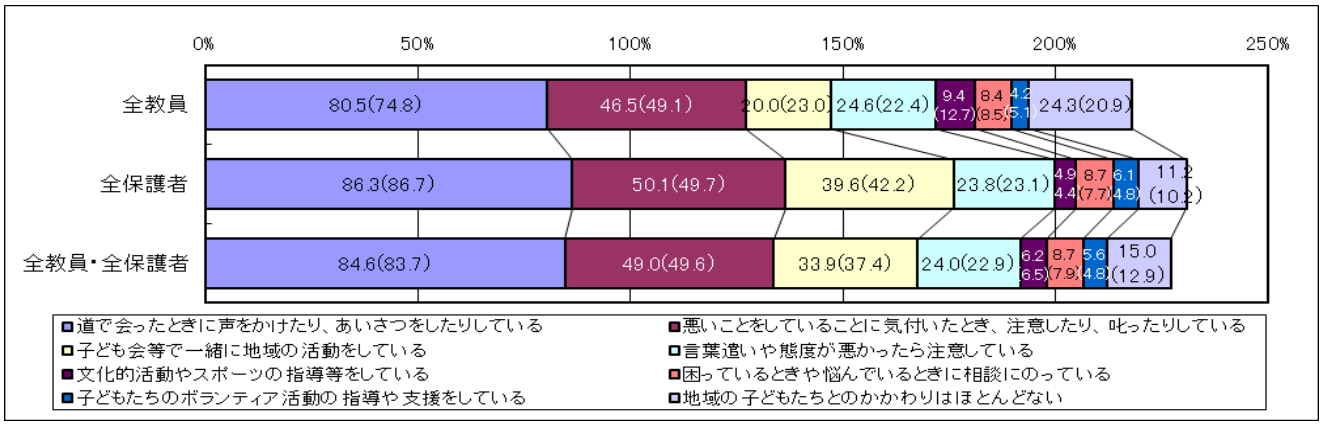
「ボランティア活動への関心の理由」の回答割合が高い項目

	順位	平成１４年度	平成１９年度	平成２４年度
全児童生徒	1	困っている人の手助けをしたい（70.2%）	困っている人の手助けをしたい（56.0%）	困っている人の手助けをしたい（65.6%）
	2	いろいろな人と出会いたい（45.0%）	地域や社会をよくしたい（34.2%）	地域や社会をよくしたい（45.1%）
	3	新しい技術や知識を身に付けたい（30.8%）	いろいろな人と出会いたい（33.7%）	達成感や満足感を味わいたい（34.1%）

○　子どもの健全な成長を促す環境をつくりましょう

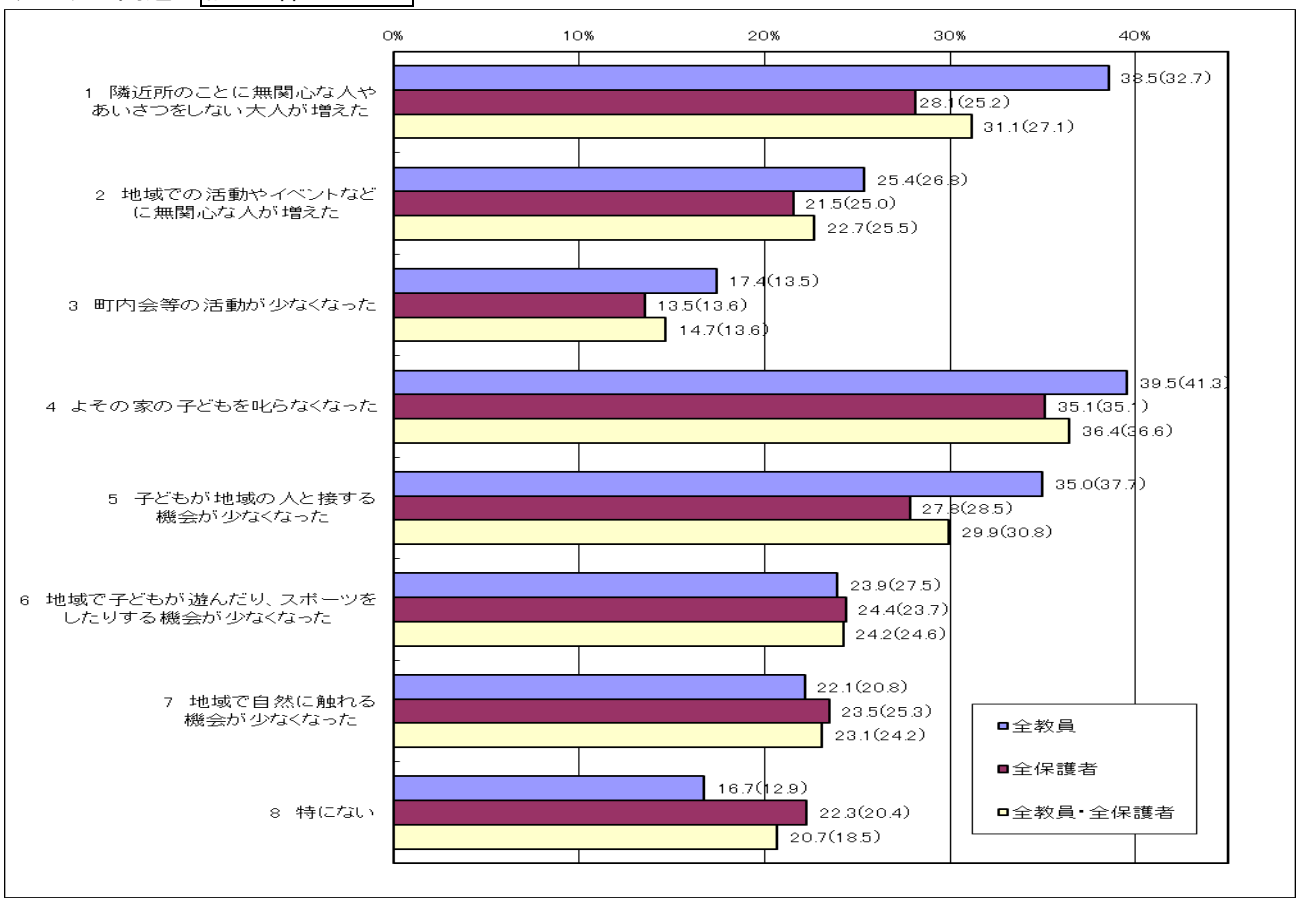
大人が一丸となって行う積極的な声かけは、子どもたちの非行の芽を摘み、健全な成長を促す環境づくりにつながります。

◇地域での子どもへの接し方　※複数回答のため 100%を超えている。　報告書 p. 122



全教員・全保護者を合わせた回答が多い順に、「道で会ったときに声をかけたり、あいさつをしたりしている」(84.6%)、「悪いことをしていることに気付いたとき、注意したり、叱ったりしている」(49.0%)、「子ども会等で一緒に地域の活動をしている」(33.9%) となっている。この順序は平成 19 年度と同じであり、その割合に大きな変化はない。

◇地域の問題　報告書 pp. 124～125

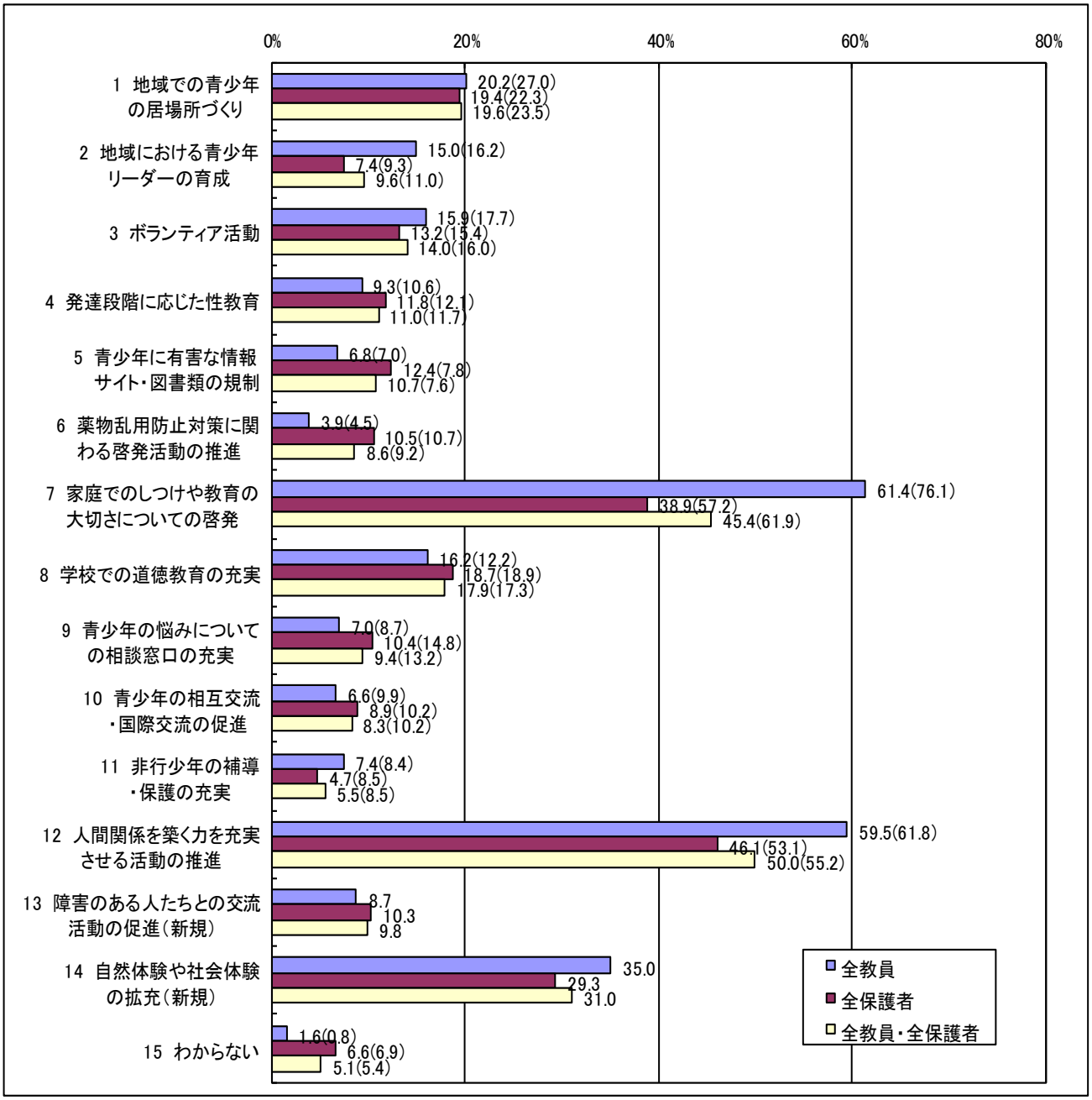


全教員・全保護者を合わせた回答が多い順に、「よその家の子どもを叱らなくなった」(36.4%)、「隣近所のことに無関心な人やあいさつをしない大人が増えた」(31.1%)、「子どもが地域の人と接する機会が少なくなった」(29.9%) となっている。平成 19 年度と比較すると、「隣近所のことに無関心な人やあいさつをしない人が増えた」が増え（全教員で 5.8 ポイント、全保護者で 2.9 ポイント)、「地域での活動やイベントなどに無関心な人が増えた」は減少している（全教員　1.4 ポイント、全保護者　3.5 ポイント)。

○　地域と学校の連携を積極的にすすめましょう

地域と学校の連携をすすめることは、地域の方々が子どもや保護者を知る機会となり、大人と子どもや大人同士の関係が深まることにつながります。地域の絆が深まることで、子どもたちの育ちが豊かになります。

◇「望ましい成長発達を支える取組」　報告書 pp. 132～133



全教員・全保護者を合わせた回答が多い順に、「人間関係を築く力を充実させる活動の推進」（50.0%）、「家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発」（45.4%）、「自然体験や社会体験の拡充」（31.0%）となっている。

全教員・全保護者を合わせた回答について、今回新たに加えた「自然体験や社会体験の拡充」「障害のある人たちとの交流活動の促進」を回答した割合はそれぞれ 31.0%、9.8%である。

ダイジェスト版

平成２４年度
長崎県児童生徒の
社会性・規範意識に関する調査研究報告

家庭・学校・地域社会へのメッセージ
みんなで育てよう、心豊かでたくましい長崎っ子

平成２５年３月発行

発行　長崎県教育センター
大村市玖島１丁目２４－２
〒８５６－０８３４　ＴＥＬ（０９５７）５３－１１３１